

にっぽん文楽公演アーカイブ

目次

・ につぼん文楽プロジェクト 設立趣意書	1
・ 「につぼん文楽」コンセプト	2
・ 一般財団法人につぼん文楽プロジェクト 沿革	3
・ につぼん文楽 in 六本木ヒルズ	4
・ につぼん文楽 in 難波宮	15
・ につぼん文楽 in 浅草観音	26
・ ～特別奉納公演～につぼん文楽 in 伊勢神宮	36
・ につぼん文楽 in 上野の杜	45
・ ～震災復興支援～につぼん文楽 in 熊本城	54
・ ～明治神宮奉納公演～につぼん文楽 in 明治神宮	63
・ ～1970年大阪万博50周年記念～につぼん文楽 in 万博記念公園	72
・ につぼん文楽公演毎入場者数一覧	79
・ 公演掲載情報・アンケート集計等	80

にっぽん文楽プロジェクト 設立趣意書

「人形浄瑠璃・文楽」は、世界の様々な人形劇と比較しても、他に類を見ないほど高度な芸術性を持ち、ユネスコの世界無形文化遺産にも登録されている世界に誇るべき「日本のタカラ」です。

しかし本拠地・大阪での観客数の伸び悩みなど、取り巻く環境には厳しいものがあります。さらには、大阪府・大阪市から補助金削減策が打ち出されるなど、国立文楽劇場と共に文楽を支えて来た公益財団法人 文楽協会の経営状況も厳しくなっています。このままでは、近い将来、文楽は存続の危機に晒される可能性もあります。

こうした状況を打開するためには、文楽の価値を広く日本人全般にアピールするような、これまでにない取り組みが必要となります。

私たちは、文楽の歴史を踏まえながらも、新たなプロデュース手法により、これまで劇場に足を運んで来なかった人たちが注目するような公演を開催して行きます。

その結果、文楽の将来を日本人全体で考える機運を醸成し、長期にわたり存続して行けるような新たな体制を構築して行くための一助として行きたいと考えます。

さらには、文楽を通じ、日本文化の価値を再認識してもらおうと共に、日本の「国家ブランド」の向上にも寄与することを目指します。

これらを実現するため、私たちは「にっぽん文楽プロジェクト」を設立します。

日本財団
会長 笹川陽平

「にっぽん文楽」コンセプト

「文楽」と言えば、何か堅苦しいと思われがちです。

しかし本来は、庶民的な「娯楽」でした。歴史の積み重ねの中で、高度な技術に裏打ちされた芸術性の高い「芸術」となって行ったのです。その芸術性の高さは、チェコのマリオネット、ベトナムの水上人形劇、中国の布袋戲など他国の伝統的な人形劇と比べても、特異なほどです。その飛び抜けた芸術性は、「人形劇」という分野に分類するのを憚るほどです。

しかし皮肉なことですが、この芸術性の高まりが、人を遠ざける原因ともなっています。このままでは、文楽は、愛好家だけのものになってしまいます。

高い芸術性をそのままに、より多くの人たちに文楽を楽しんで欲しい—この願いから生まれたのが、「にっぽん文楽プロジェクト」です。

かつては、飲みながら・食べながら見るというのは当たり前のことでした。能でも「勧進能」などのようにイベント的な催しでは、相撲のように料理屋が出ていたほどです。

しかし今、多くの劇場で飲食は禁止されており、ゆったりと飲みながら食べながら見る、ということは出来ません。それならば本格的な移動式の野外劇場を作り、全国の人に、開放的な空間で、飲みながら・食べながら文楽を楽しんでもらおう、と考えました。これが「にっぽん文楽プロジェクト」のコンセプトです。

野外劇場は、文楽に負けないよう、「本物」を追求しました。舞台部分は銘木の産地・吉野から切り出された檜をふんだんに使い、伝統工法を受け継ぐ宮大工が手掛けました。随所に付けられた飾り金具は、確かな技術を持った職人たちが丹精込めて手打ちした物です。太夫・三味線が並ぶ「床」には本格的な「盆」も設けました。木製の縁台が並べられた客席を囲むのは、木綿の生地の本藍で「にっぽん文楽」の紋が染められた幔幕です。

間近で見たい、と文楽人形の大きさに合わせ、客席は、僅か300席ほどにしました。

もちろん、出演する技芸員は、現代を代表する顔ぶれが、交代で出演しています。

楽しみ方に決まりはありません。今までとは違った楽しみ方を提案することにより、文楽が幅広い人たちに支持される存在となると思っています。

日本人が守り育てて来た素晴らしい文楽という芸能が、これからも末長く続いて行くことを願ってやみません。

「にっぽん文楽」総合プロデューサー

中村雅之

一般財団法人にっぽん文楽プロジェクト 沿革

2014年（平成26年）	7月	笹川陽平日本財団会長の発意により、任意団体「にっぽん文楽プロジェクト」設立
2014年（平成26年）	8月	にっぽん文楽プレビュー公演実施
2015年（平成27年）	2月	シンポジウム「日本の芸能と空間」～にっぽん文楽に寄せて 実施
2015年（平成27年）	3月	「にっぽん文楽in六本木ヒルズ」公演 実施
2015年（平成27年）	4月	一般財団法人移行
2015年（平成27年）	10月	シンポジウム「道頓堀と文楽」～にっぽん文楽に寄せて 実施
2015年（平成27年）	10月	「にっぽん文楽in難波宮」公演 実施
2016年（平成28年）	9月	シンポジウム「にっぽんの芸能と信仰」 実施
2016年（平成28年）	10月	「にっぽん文楽in浅草観音」公演 実施、前日に文楽では珍しい浅草寺でのお練り開催
2017年（平成29年）	3月	「にっぽん文楽in伊勢神宮」公演 実施
2017年（平成29年）	10月	「にっぽん文楽in上野の杜」公演 実施
2018年（平成30年）	3月	～震災復興支援～「にっぽん文楽in熊本城」公演 実施
2019年（平成31年）	3月	「にっぽん文楽in明治神宮」公演 実施
2020年（令和2年）	3月	～1970年大阪万博50周年記念～「にっぽん文楽in万博記念公園」公演 新型コロナウイルス感染拡大防止のため公演中止

にっぽん文楽 in 六本木ヒルズ

飲みながら 食べながら文楽

襲名目前の玉女ら出演

ヒノキ造りの「組み立て舞台」で

現在の劇場ではタブーともされる飲食自由を謳った「にっぽん文楽」の初めての公演が、3月19日から22日まで、東京・六本木ヒルズで開催される。これまでとは違ったスタイルで、日本を代表する古典芸能「文楽」を広くアピールしよう—と日本財団がスタートさせたプロジェクトで、東京オリンピックが開かれる2020年までの6年間、約1億円を掛けて造られたヒノキ造りの本格的な「組み立て舞台」を使って大阪など全国各地を巡演する。演じられる文楽はもちろんのこと、舞台・幔幕、提供される食べ物・飲み物に至るまで、「本物」に拘った企画だ。一般公開に先立って18日夜には、プレビュー公演が開催される。

「組み立て舞台」は、銘木の産地・吉野から切り出されたヒノキ材をふんだんに使って作られた幅約19.7メートル、高さ6.7メートルにもおよぶ本格的なもの。六本木ヒルズの建物とテレビ朝日との間にある空間・ヒルズアリーナに、2日間掛けて建てられる。木綿に伝統的な染めの幔幕が、客席をぐるりと囲む。

定員は300席ほどで、間近で文楽を楽しむことが出来る。開演前や幕間はもちろん、上演中も飲食自由。大阪を代表する料理茶屋「大和屋三玄」の特製弁当（監修／料理研究家・松本忠子）、花街の名残をとどめる神楽坂に店を構える名店・紀の善の甘味を楽しむことも出来る（特製弁当のみ予約制）。選りすぐられた日本酒も販売されるなど、娯楽としての原点に立ち返り、開放的な空間で、ゆったりと寛ぎながら文楽を楽しんでもらおうという趣向だ。

今回の出演者は、日本芸術院賞などに輝く、文楽を代表する人形遣い・吉田玉女を始めとした一線級の顔ぶれ。玉女は、4月に「人間国宝」であった師匠の名跡・玉男を襲名することが決まっており、「玉女」としては最後の舞台となる。演目は、舞台披きに相応しく祝儀物の「二人三番叟」と道成寺物の名作「日高川入相花王 渡し場の段」。

開演前の「ショートトーク」では、元NHKアナウンサーで古典芸能解説者の葛西聖司、「リンボウ先生」として知られる作家・国文学者の林望、料理評論家の山本益博が、それぞれの視点から「にっぽん文楽」の楽しみ方を語る。

公 演 概 要

○公演タイトル

にっぽん文楽 in 六本木ヒルズ

○日時

2015年3月19日～22日

【昼の部】12:00～13:30 【夜の部】18:30～20:00

○会場

六本木ヒルズアリーナ

○プログラム

ショートトーク「私の文楽」

葛西聖司（古典芸能解説者）

林望（作家・国文学者）

山本益博（料理評論家）

19日（木）[昼]林 [夜]林 20日（金）[昼]葛西 [夜]葛西

21日（土）[昼]葛西 [夜]葛西 22日（日）[昼]山本 [夜]葛西

演目・出演

「二人三番叟」

太 夫：豊竹英大夫、豊竹希大夫、豊竹亘大夫

三味線：鶴澤清介、鶴澤清植、鶴澤清丈、鶴澤清公

人 形：吉田玉女、吉田簀二郎、吉田清五郎、吉田簀一郎、

吉田文哉、桐竹紋秀、吉田玉翔、吉田玉路、吉田玉延

お囃子：望月太明藏社中

「日高川入相花王 渡し場の段」

太 夫：竹本三輪大夫、竹本文字栄大夫、豊竹希大夫、豊竹亘大夫

三味線：竹澤團七、竹澤團吾、鶴澤清丈、鶴澤清公

人 形：豊松清十郎、吉田玉佳、吉田清五郎、吉田簀一郎、

吉田文哉、桐竹紋秀、吉田玉翔、吉田玉路、吉田玉延

お囃子：望月太明藏社中

○席料

2,000円（全席自由）

○チケット予約

にっぽん文楽プロジェクトホームページ

(<http://www.nipponbunraku.com>)

○問い合わせ

にっぽん文楽プロジェクト（TEL03-6233-8948、平日 10:00～17:00）

※プレビュー公演（招待客・報道関係者限定）

2015年3月18日 開場式 18:00～

開演 18:30～

総合プロデューサー：中村雅之

アシスタントプロデューサー：榎本かおり（BOX4628）

組み立て舞台監修：本城邦彦（建築家）／弁当監修：松本忠子（料理研究家）／アドバイザー：宮本芳彦（宮本卯之助商店）

組み立て舞台設計：田野倉徹也（田野倉建築事務所）／舞台監督：旅川雅治（能楽プロ）／技術監督：小坂部恵次（京都造形芸術大学准教授）／運営ディレクター：原昇（ミュージメント・ワークス）／グラフィックデザイン：みやはらたかお／組み立て舞台建築：菜の実建築工房／幔幕・のぼり製作：宮本卯之助商店／舞台機構・大道具：金井大道具／照明：岡田有生（ピーエーシーウエスト）・能楽プロ／音響：能楽プロ

主催：日本財団

制作：にっぽん文楽プロジェクト

特別協力：六本木ヒルズ

協力：公益財団法人 文楽協会、国立文楽劇場

大和屋三玄、甘味 紀の善

後援：文化庁

○演目解説

「二人三番叟」

国家安穩・五穀豊穰を祈り、能・文楽・歌舞伎などが生まれる以前から、日本の芸能の中で演じられ続けて来た「翁芸」の流れの中に位置する演目。文楽の「寿式三番叟」では、千歳、翁、二人の三番叟が順番に登場して舞うが、「二人三番叟」は、その中から三番叟を抜粋して演じるもの。三番叟は、種まき、実りなど稲作の様子を舞踊化したもの。性格の違う二人の三番叟が、鈴などを手に、変化にとんだ動きを見せる。「翁芸」が本来的に持つ荘厳さの中に滑稽味が加わる小品だ。

「日高川入相花王 渡し場の段」

能を源流として、歌舞伎でも様々な形で作品化されている「道成寺物」の一つ。宝暦9年(1759)、大坂・竹本座の初演。広く知られている安珍清姫伝説に皇位継承争いを加え、他の「道成寺物」とは一味違うスケールの大きい物語に仕立てている。全五段だが、現在演じられているのは四段目の前半「真那古庄司館の段」と後半「渡し場の段」のみ。特に「渡し場の段」のみを演じる場合が多い。桜木親王は、皇位継承争いから山伏・安珍に身をやつし都を逃れる。途中、一夜の宿を借りた紀州・真那古庄司の一人娘・清姫は、かつて都で見初めた桜木親王に恋心を燃やす。しかし桜木親王には、恋仲のおだ巻姫がいた。庄司の館で落ち合った二人は、道成寺へと向かう。それを知った清姫は、嫉妬に狂い後を追う。「渡し場の段」は、この先から始まる。清姫が、道成寺を目前とした日高川の岸まで来ると、追って来るのを予測していた桜木親王に言い含められていた渡し守が乗せるのを拒む。嫉妬の塊となった清姫は、日高川に飛び込み、蛇に姿を変え激流を渡り切ったところで終わる。清姫の娘の首は、蛇に変身すると、一瞬にして「ガブ」と呼ばれる恐ろしい形相となる。

○公演関係シンポジウム

シンポジウム「日本の芸能と空間」～につぼん文楽に寄せて

日本の伝統文化の特質は、人々の自然のなかの生活と深い結びつきを持ちながら育まれてきた。能楽の神事性、歌舞伎や文楽の祝祭性や三味線や鼓などの自然との深い関わり、さらに四季折々に神社仏閣や河原など野外の仮設舞台で演じられてきました。

につぼん文楽は、この日本における芸能の特質をふり返り、大衆娯楽である文楽の原点に立ち返り、多くの方々に楽しんで頂こうと企画しました。この意味を考えるためにシンポジウムを開催します。

日時：2015年2月23日（月）

会場：ホテルグランドアーク半蔵門

パネラー：

奥富利幸（近畿大学工学部教授）

斉藤裕嗣（国立文化財機構・東京文化財研究所）

中村雅之（につぼん文楽総合プロデューサー、横浜能楽堂館長）

司会：葛西聖司（古典芸能解説者）

にっぽん文楽 in 六本木ヒルズ 実施報告

○事業概要

- ・シンポジウム「日本の芸能と空間」～にっぽん文楽公演に寄せて
平成 27 年 2 月 23 日(月) 会場：ホテルグランドアーク半蔵門
- ・組み立て舞台建築見学会
平成 27 年 3 月 19 日(木) 会場：六本木ヒルズ ヒルズアリーナ
- ・にっぽん文楽 in 六本木ヒルズ
平成 27 年 3 月 18 日(水) 18：30 (招待公演)
平成 27 年 3 月 19 日(木)～3 月 22 日(日) ①12:00 ②18：30
会場：六本木ヒルズ ヒルズアリーナ

主 催：日本財団／制作：にっぽん文楽プロジェクト

後 援：文化庁

特別協力：六本木ヒルズ／協力：公益財団法人文楽協会、国立文楽劇場、大和屋三玄、
甘味紀の善、京枳屋舞台、月夜野運送、東京ウォーカー

○実施結果の概要

上記のとおり実施。

※にっぽん文楽 in 六本木ヒルズ、平成 27 年 3 月 19 日(木)②18：30 公演が雨天により中止のため、公演実施回数は全 8 回。

入場者数：

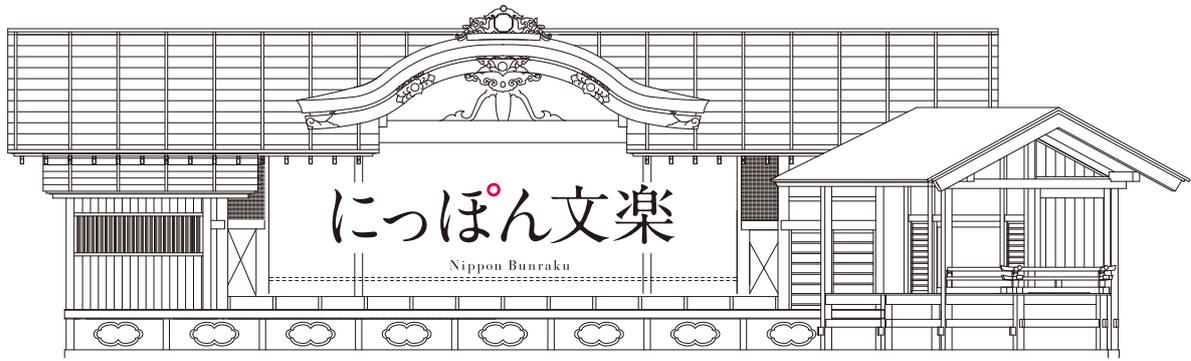
- ・シンポジウム：63 名
- ・組み立て舞台建築見学会：43 名
- ・にっぽん文楽 in 六本木ヒルズ：1915 名 ※有料・招待含む

○所感

「現代的空間」と言えば、誰でも思い浮かべるのは東京・六本木ヒルズ。その一角に、伝統文化の粋を集めた「にっぽん文楽」の舞台が忽然と姿を現した。存分に楽しんでもらおう、と大阪を代表する名料亭「南地大和屋」の流れを汲む料理屋「大和屋三玄」の特製弁当（監修／料理研究家・松本忠子）、花街の名残を留める神楽坂の名店・紀の善の甘味、選りすぐりの日本酒も用意した。当日は、シャンパンのボトルを間に置いてグラスを片手に楽しむ、お洒落な二人連れなど、いかにも六本木らしい光景も見られた。

にっぽん文楽 in 六本木ヒルズ 【提供：日本財団】





シンポジウム「日本の芸能と空間」 ～にっぽん文楽公演に寄せて

日本の伝統文化の特質は、人々の自然のなかの生活と深い結びつきを持ちながら育まれてきたことです。芸能の祝祭性、三味線や鼓などの自然との深い関わり、さらに四季折々に神社仏閣や河原など野外の仮設舞台で演じられてきました。にっぽん文楽は、この日本における芸能の特質をふり返り、大衆娯楽である文楽の原点に立ち返り、多くの方々に楽しんで頂こうと企画しました。この意味を考えるためにシンポジウムを開催します。また、シンポジウム参加者は舞台見学会への参加も可能となります。

日時：2015年2月23日（月）14：00

会場：ホテルグランドアーク半蔵門3階「華」参加費無料

パネラー：本城邦彦（竹中大工道具館常務理事）

齊藤裕嗣（東京文化財研究所客員研究員）

中村雅之（にっぽん文楽総合プロデューサー、横浜能楽堂館長）

司 会：葛西聖司（古典芸能解説者）

組み立て舞台建築 見学会

銘木の産地・吉野から切り出した檜をふんだんに使って、間口5間、奥行4間と太夫座を設けて文楽専用舞台を建築します。その舞台と約300席の座席を配し、その周りを約100メートルの幔幕が取り巻き、劇場空間を作り上げます。限定50名で組み立て舞台の見学会を開催します。

日時：2015年3月19日（木）15：00から16：00

会場：六本木ヒルズアリーナ 組み立て舞台

案内講師：田野倉徹也（建築家）

組み立て舞台監修：本城邦彦／組み立て舞台設計：田野倉徹也／組み立て舞台建築：菜の実建築工房

問い合わせ、参加申込みは、にっぽん文楽プロジェクトまで、メールか電話でお申込みください

電話：03-6233-8948

E-mail：info@nipponbunraku.com

にっぽん文楽プロジェクトホームページ：<http://www.nipponbunraku.com>

お席に限りがございますので、お早めにお申込みください

飲みながら 食べながら 文楽

にっぽん文楽

Nippon Bunraku

日時：2015年3月19日～22日

全8回公演

①12：00～13：30

②18：30～20：00

「二人三番叟」 豊竹英大夫、鶴澤清介、吉田玉女ほか

「日高川入相花王 渡し場の段」 竹本三輪大夫、竹澤團七、豊松清十郎ほか

席料／2,000円（全席自由）。インターネット事前予約のみ。

会場／六本木ヒルズアリーナ

にっぽん文楽

Nippon Bunraku

in 六本木ヒルズ

飲みながら
食べながら
文楽



ショートトーク「私の文楽」 葛西聖司、林望、山本益博(交代制)

「二人三番叟」

豊竹英大夫、鶴澤清介、吉田玉女ほか

「日高川入相花王」 渡し場の段

竹本三輪大夫、竹澤團七、豊松清十郎ほか

総合プロデューサー…中村雅之



2015年3月19日(木)～22日(日)

[昼の部] 開場11:00 開演12:00 終演予定13:30 [夜の部] 開場17:30 開演18:30 終演予定20:00

※雨天荒天の場合は中止します。 ※会場は屋外のため、防寒対策の設備はございません。防寒には、十分ご注意ください。
※飲食、持ち込み自由。「特製弁当」あり(予約制)。場内では、遅りすぐりの日本酒・甘味もご用意しております。

会場：六本木ヒルズアリーナ (特設檜舞台/限定300席)

チケット料金：2,000円(自由席) チケット発売：12月15日から

お申込み：にっぽん文楽プロジェクトホームページ <http://www.nipponbunraku.com>

※前売りは上記ホームページでの予約販売のみとなります。電話でのチケット予約はございません。※チケットは当日受け取りです。開演時間の15分前までに、チケット引き換え窓口へお出にならない場合は、自動キャンセルとなります。※当日券は各回とも開場と同時に、お席に余裕がある場合のみ販売いたします。※「特製弁当」の予約も、お受けします。

お問合せ：にっぽん文楽プロジェクト Tel:03-6233-8948 (平日10:00～17:00)

主催：日本財団

制作：にっぽん文楽プロジェクト

特別協力：六本木ヒルズ

協力：公益財団法人 文楽協会、国立文楽劇場

大和屋三玄、甘味 紀の善



飲む・食べる・見る－「にっぽん文楽」in六本木ヒルズを存分に楽しむ方法

総合プロデューサー 中村雅之 (横浜能楽堂館長／明治大学大学院兼任講師)

劇場の中ではなく、屋外の開放的な空間で、飲みながら、食べながら、間近で文楽を見る－この夢を実現したのが「にっぽん文楽」です。舞台は、銘木の産地・吉野から切り出された檜をふんだんに使って作られた移動自由の組立て式。「にっぽん文楽プロジェクト」のために、新たに作られたものです。幔幕に仕切られた客席(縁台)は、僅か300席ほどしかありません。間近に文楽を見ることが出来ます。

「にっぽん文楽」を存分に楽しんでいただくためには、まずチケットと同時に、大阪を代表する料理茶屋「大和屋三玄」の特製弁当(監修/料理研究家・松本忠子)を予約。

当日は、会場に早めに着いて、お好みの席を確保した後、花街の名残りをとどめる神楽坂に店を構える名店・紀の善の甘味と選りすぐりの純米酒を購入します。席に戻って、ゆっくりとお弁当を広げてください。

今回の出演者は、日本芸術院賞などに輝く、文楽を代表する人形遣い・吉田玉女を始めとした一線級の顔ぶれです。玉女は、4月に「人間国宝」であった師匠の名跡・玉男を襲名しますから、「玉女」としては最後の舞台となります。演目は、舞台披きに相応しく祝儀物の「二人三番叟」と道成寺物の名作「日高川入相花王 渡し場の段」。短い演目ですから、事前に本やインターネットで、あらすじを頭に入れておさええすれば、初めての人も、心に余裕を持って見る事が出来ます。開演前や幕間はもちろん、上演中も飲食自由。飲みながら食べながら、「ショートトーク」で様々な視点からの文楽の魅力を開き、一流の芸を楽しむことが出来ます。

演目・出演

ショートトーク「私の文楽」

葛西聖司 (古典芸能解説者)

林望 (作家・国文学者)

山本益博 (料理評論家)

19日(木) [昼]林 [夜]林 20日(金) [昼]葛西 [夜]葛西
21日(土) [昼]葛西 [夜]葛西 22日(日) [昼]山本 [夜]葛西

「二人三番叟」

太 夫：豊竹英大夫、豊竹希大夫、豊竹巨大夫

三味線：鶴澤清介、鶴澤清暁、鶴澤清丈、鶴澤清公

人 形：吉田玉女、吉田簀二郎、吉田清五郎、吉田簀一郎、吉田文哉、桐竹紋秀、
吉田玉翔、吉田玉路、吉田玉延

お囃子：望月太明藏社中

「日高川入相花王 渡し場の段」

太 夫：竹本三輪大夫、竹本文字栄大夫、豊竹希大夫、豊竹巨大夫

三味線：竹澤團七、竹澤團吾、鶴澤清丈、鶴澤清公

人 形：豊松清十郎、吉田玉佳、吉田清五郎、吉田簀一郎、吉田文哉、桐竹紋秀、
吉田玉翔、吉田玉路、吉田玉延

お囃子：望月太明藏社中

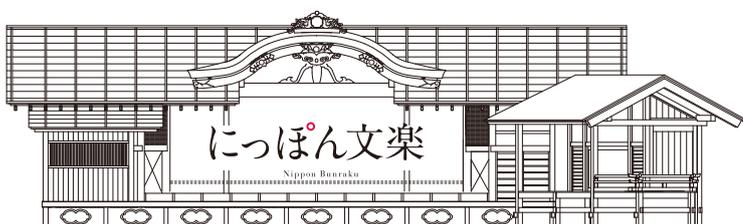
※内容・出演者に変更がある場合があります。あらかじめご了承ください。

総合プロデューサー：中村雅之／アシスタントプロデューサー：榎本かおり (BOX4628)

組み立て舞台監修：本城邦彦 (建築家)／弁当監修：松本忠子 (料理研究家)／アドバイザー：宮本芳彦 (宮本卯之助商店)

組み立て舞台設計・監理：田野倉徹也 (田倉建築事務所)／舞台監督：旅川雅治 (能楽プロ)／運営ディレクター：原昇 (ミュージメント・ワークス)

組み立て舞台建築：葉の実建築工房／幔幕・のぼり製作：宮本卯之助商店／舞台機構・大道具：金井大道具／照明・音響：パシフィックアートセンター／グラフィックデザイン：みやはらたかお



「にっぽん文楽」in六本木ヒルズ「お勧め3点セット」



「大和屋三玄」の特製弁当(予約制)－串で刺せる一口サイズの美味がぎっしり。横に置いて、どうぞ。



「紀の善」の甘味－厳選された材料で作られた抹茶パンデア・餡豆かん・あんみつ。



選りすぐりの純米酒－日本酒本来の味を楽しめる純米酒をとり揃えて。飲み比べてください。

※写真はイメージです。

交通のご案内

- JR東京メトロ 日比谷線「六本木駅」1C出口 徒歩0分 (コンコースで直結)
- 都営地下鉄 大江戸線「六本木駅」3出口 徒歩4分
- 都営地下鉄 大江戸線「麻布十番駅」7出口 徒歩5分
- 東京メトロ 南北線「麻布十番駅」4出口 徒歩8分
- 東京メトロ 千代田線「乃木坂」5出口 徒歩10分

roppongi hills

住所：〒106-6108 東京都港区六本木6-10-1

URL：<http://www.roppongihills.com>

にっぽん文楽 in 難波宮

勘十郎・玉男 そろい踏み 「にっぽん文楽」大阪で初公演 大阪の歴史、文化を知るシンポジウム「道頓堀と文楽」も開催

・「にっぽん文楽プロジェクト」とは

これまでとは違ったスタイルで、「日本のタカラ」である古典芸能「文楽」を広くアピールしよう。と、日本財団がスタートさせたプロジェクトで、東京オリンピックが開かれる2020年までの6年間、ヒノキ造りの本格的な「組み立て舞台」を使って全国各地を巡演する。この組み立て舞台は、銘木の産地・吉野から切り出されたヒノキをふんだんに使い、回転式の床も備えた本格的なもの。「本物」にこだわり抜く、というのが「にっぽん文楽」のコンセプト。文楽の醍醐味を存分に味わうことができる。また、野外の開放的な空間で「飲みながら食べながら」娯楽として空間全体を楽しんでもらえるよう、開演前や幕間はもちろん、上演中も飲食自由というめずらしい公演形式をとる。

3月に東京・六本木ヒルズで開催された初の公演は、早々にチケットが完売。当日、会場を訪れた人は、普段の公演とは一味違う開放的な空間で、思い思いに、飲んだり食べたりしながら、文楽を楽しんだ。

・「にっぽん文楽 in 難波宮」

その「にっぽん文楽」大阪での初めての公演を、10月17日から20日まで、大阪市中央区の難波宮跡公園（大阪歴史博物館・NHK前）で開催する。大阪の都市文化の発祥の地から、文楽を全国的にアピールしようというもの。「くいだおれ大阪」の土地柄を生かし、自分が好きな物を自由に持ち込んで楽しむスタイル。また、今年は道頓堀開削400年。道頓堀が文楽発祥の地であることから、共に盛り上げを図る。

出演者は、幅広い活動で人気を集める桐竹勘十郎、襲名披露公演を終えたばかりの吉田玉男ら豪華な顔ぶれが並ぶ。演目は、道頓堀開削400年を祝い、祝儀物の「二人三番叟」、そしてドラマチックでエンタテインメント性十分の「本朝廿四孝 奥庭狐火の段」だ。開演前には義太夫・三味線・人形の解説や組み立て舞台を存分に楽しんで頂く企画も用意する。

・道頓堀開削400年記念

シンポジウム「道頓堀と文楽」～にっぽん文楽公演に寄せて

大阪で生まれ、大阪の庶民に育まれてきた「人形浄瑠璃文楽」。17世紀後半、大阪・道頓堀の劇場・竹本座で人形浄瑠璃の劇団を旗揚げした竹本義太夫は、浄瑠璃作者の近松門左衛門と提携して数多くのヒット作品を生み出した。当時、道頓堀には芝居（劇場）がいくつもあり、18世紀には人形浄瑠璃は歌舞伎をしのぐ人気があったと伝えられている。

その道頓堀開削400年の記念すべき年に「人形浄瑠璃文楽」の価値を再認識し、その魅力を多くの方々に知ってもらいたい、と、「道頓堀と文楽」をテーマにシンポジウムを開催。歴史的背景や当時の様子、文楽の魅力などを大いに語り合う。

公 演 概 要

公演タイトル：「にっぽん文楽 in 難波宮」

日時：2015年10月17日～20日

[昼の部] 開場 12:00 開演 14:00 / [夜の部] 開場 16:30 開演 18:30

会場：難波宮跡公園（大阪歴史博物館・NHK前）

プログラムと主な出演

二人三番叟（ににんさんばそう）

太 夫：豊竹睦大夫、豊竹芳穂大夫、豊竹靖大夫

三味線：鶴澤清植、鶴澤清丈、鶴澤清公、鶴澤清允

人 形：【三番叟】吉田玉男、【三番叟】吉田幸助

本朝廿四孝 奥庭狐火の段（ほんちょうにじゅうしこう おくにわきつねびのだん）

太 夫：竹本津駒大夫

三味線：鶴澤藤蔵、鶴澤清植、鶴澤清公

人 形：【八重垣姫】桐竹勘十郎

人形部：桐竹勘昇、桐竹勘次郎、桐竹勘介、吉田玉佳、吉田玉翔、吉田玉勢、吉田玉延、
吉田玉路吉田玉征、吉田簀紫郎、吉田簀次、吉田簀之（※五十音順）

囃 子：望月太明藏社中

太夫・三味線の解説：豊竹靖大夫、鶴澤清丈 / 人形の解説と人形遣い体験：吉田一輔

チケット料金：2,000円（自由席） チケット好評発売中

チケット取扱い：

にっぽん文楽プロジェクトホームページ：<http://nipponbunnraku.com>

チケットぴあ：0570-02-9999 Pコード：445-580

ローソンチケット：0570-084-005 Lコード：58117

e+（イプラス）：<http://eplus.jp> / モバイルサイト GREENS! チケット <http://www.greens-corp.co.jp/>

問い合わせ：にっぽん文楽プロジェクト（TEL 03-6233-8948、平日 10:00～17:00）

主催：日本財団

協力：独立行政法人 日本芸術文化振興会 / 制作協力：公益財団法人文楽協会

後援：文化庁 / 大阪市 / 公益財団法人関西・大阪 21 世紀協会 / NHK 大阪放送局

総合プロデューサー：中村雅之 / 制作：にっぽん文楽プロジェクト

舞台監督：山添寿人 / 舞台機構・大道具：関西舞台 / 照明：岡田有生 / 音響：辻展章

建築設計・監理：田野倉建築事務所 / 構造設計・監理：福山弘構造デザイン / 組立施工：菜の実建

築工房 / 運営協力：グリーンズコーポレーション / グラフィックデザイン：みやはらたかお

○演目解説

「二人三番叟」

国家安穩・五穀豊穰を祈り、能・文楽・歌舞伎などが生まれる以前から、日本の芸能の中で演じられ続けて来た「翁芸」の流れの中に位置する演目。文楽の「寿式三番叟」では、千歳、翁、二人の三番叟が順番に登場して舞うが、「二人三番叟」は、その中から三番叟を抜粋して演じるもの。三番叟は、種まき、実りなど稲作の様子を舞踊化したもの。性格の違う二人の三番叟が、鈴などを手に、変化にとんだ動きを見せる。「翁芸」が本来的に持つ荘厳さの中に滑稽味が加わる小品だ。

「本朝廿四孝 奥庭狐火の段」

1766（明和3）年、大坂・竹本座初演。全五段に分かれ、「奥庭狐火の段」は、四段目の一部。ドラマチックであると同時に、ヒロインの八重垣姫に霊力を持った狐がからみ、人形浄瑠璃のエンタテイメント性を堪能することが出来ることから人気の部分で、上演される機会も多い。桐竹勘十郎得意の演目だ。

につぼん文楽 in 難波宮 実施報告

○事業概要

- ・シンポジウム「道頓堀と文楽」～につぼん文楽公演に寄せて
平成 27 年 10 月 1 日（木）19：00～20：30
会場：大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）パフォーマンススペース
入場料：無料（予約制）
- ・につぼん文楽 in 難波宮
平成 27 年 10 月 17 日（土）～10 月 20 日（火）【昼の部】14：00 【夜の部】18：30
※全 8 回
会場：難波宮跡公園（大阪歴史博物館・NHK 前）
入場料：2,000 円

主 催：日本財団／制 作：につぼん文楽プロジェクト
後 援：文化庁／大阪市／公益財団法人関西・大阪 21 世紀協会／NHK 大阪放送局
協 力：独立行政法人日本芸術文化振興会／制作協力：公益財団法人文楽協会

○実施結果の概要

上記のとおり実施

入場者数：シンポジウム・・・・・・・・・・101 名
につぼん文楽 in 難波宮・・・・2802 名 ※有料・招待含む

○所感

文楽発祥の地、大阪での初公演。舞台は、大阪歴史博物館や NHK 大阪放送局が立ち並ぶ難波宮跡の広場に建てられた。演目は「二人三番叟」に「本朝廿四孝 奥庭狐火の段」と、賑やかでエンタテイメント性の高い演目で、晴天に恵まれた満員の客席と共に大いに盛り上がった。また、公演前や合間には、文楽を構成する太夫・三味線・人形それぞれについての解説や、組立舞台を設計した建築家と実際に組立建築を行う宮大工による舞台解説なども行った。

(写真資料)

- ・シンポジウム「道頓堀と文楽」～にっぽん文楽公演に寄せて～

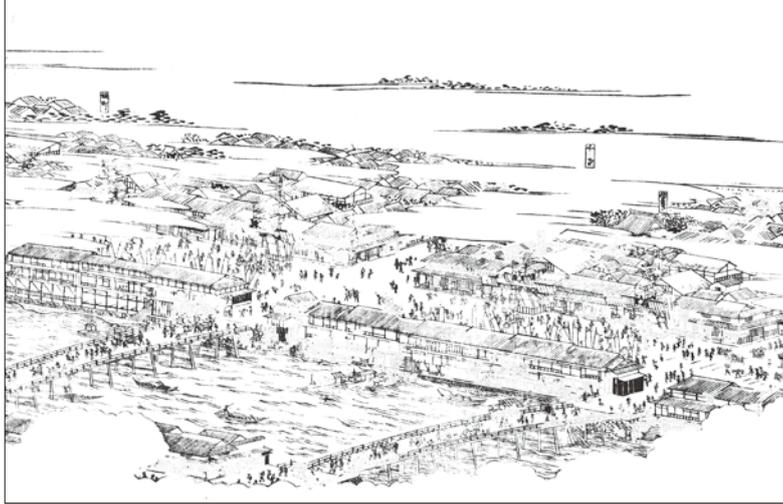


・につぽん文楽 in 難波宮



シンポジウム「道頓堀と文楽」 ～にっぽん文楽公演に寄せて

大阪で生まれ、大阪の庶民に育まれてきた「人形浄瑠璃文楽」。17世紀後半、大阪・道頓堀の劇場・竹本座で人形浄瑠璃の劇団を旗揚げした竹本義太夫は、浄瑠璃作者の近松門左衛門と提携して数多くのヒット作品を生み出しました。当時、道頓堀には芝居（劇場）がいくつもあり、歌舞伎なども上演されていましたが、18世紀には人形浄瑠璃は歌舞伎をしのぐ人気があったと伝えられています。



道頓堀芝居側(摂津名所図会)

その道頓堀は、今年、開削400年の節目の年を迎えています。この記念すべき年に「人形浄瑠璃文楽」の価値を再認識し、その魅力を多くの方々に知ってもらいたいと、来る10月17日から4日間、「にっぽん文楽 in 難波宮」と銘打って、檜づくりの組み立て舞台で公演を開催します。

この公演に寄せて、シンポジウムを開催します。テーマは「道頓堀と文楽」。道頓堀をよく知るお二人、藪田貫さん、鳥居弘昌さんには、歴史的背景や当時の様子などについて大いに語り合い、そして、桐竹勘十郎さんには文楽の魅力をたっぷりとお話していただきます。

日時：2015年10月1日(木) 19時開演(20時30分終演予定)
会場：ドーンセンター パフォーマンススペース
定員：150名

内容：「CGによる道頓堀界隈の景観の復元」を見る
道頓堀開削400年の歴史を知る
道頓堀と文楽
にっぽん文楽について

パネラー：藪田貫(関西大学文学研究科教授、大阪都市遺産研究センター長)
鳥居弘昌(上方文化再生実行委員会事務局長、千日山弘昌寺住職、トイホール代表)
桐竹勘十郎(人形浄瑠璃文楽座 人形遣い)

司会：亀岡典子(産経新聞社文化部 編集委員)

協力：NPO法人 人形浄瑠璃文楽座

お申込み：①氏名 ②参加人数 ③電話番号 を明記の上、
FAX もしくは E-mail でお申込みください。 **入場料無料**
FAX：03-6233-8947 / E-mail：info@nipponbunraku.com

お問合せ：にっぽん文楽プロジェクト 03-6233-8948 (平日10:00～17:00)
NPO 法人 人形浄瑠璃文楽座 06-6211-6131



〒540-0008 大阪市中央区大手前1-3-49 tel.06-6910-8500
●京阪「天満橋」駅下車。東口方面の改札から地下通路を通過して1番出口より東へ約350m●地下鉄谷町線「天満橋」駅下車。1番出口より東へ約350m●JR東西線「大阪城北詰」駅下車。2番出口より土佐堀通り沿いに西へ約550m

※定員に達しましたらお申込みは締切らせて頂きます。

持ち込み自由

飲みながら 食べながら 文楽

にっぽん文楽

Nippon Bunraku

in 難波宮

2015年10月17日(土)～20日(火) ①12:00開場 14:00開演/②16:30開場 18:30開演
会場：難波宮跡公園(大阪歴史博物館・NHK前) / チケット料金：2,000円(自由席)

演目・出演：「二人三番叟」 豊竹睦大夫、鶴澤清暁、吉田玉男ほか

「本朝廿四孝 奥庭狐火の段」 竹本津駒大夫、鶴澤藤蔵、桐竹勘十郎ほか

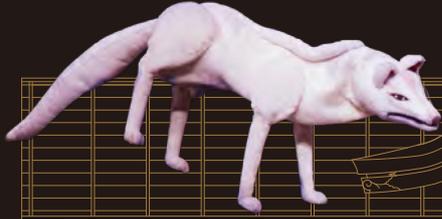
詳細は、にっぽん文楽プロジェクトホームページ (<http://www.nipponbunraku.com>) をご覧ください。

にっぽん文楽

Nippon Bunraku

in 難波宮

持ち込み自由
飲みながら食べながら文楽



「二人三番叟」
豊竹睦夫、鶴澤清尙、吉田玉男ほか
「本朝廿四孝 奥庭狐火の段」
竹本津駒大夫、鶴澤藤蔵、桐竹勘十郎ほか
総合プロデューサー 中村雅之



写真：渡邊肇

2015年10月17日(土)～20日(火)

[昼の部] 開場12:00 開演14:00

[夜の部] 開場16:30 開演18:30

※雨天荒天の場合は中止します。 ※会場は屋外のため、防寒対策の設備はございません。防寒には、十分ご注意ください。
※会場内での飲食は自由。会場内での販売はございません。持ち込み下さい。他の方のご迷惑にならないように、ご注意願います。

会場：難波宮跡公園（大阪歴史博物館・NHK前）

チケット料金：2,000円（自由席） チケット発売：7月21日から

チケット取扱い：にっぽん文楽プロジェクトホームページ <http://www.nipponbunraku.com>

チケットぴあ 0570-02-9999 Pコード：445-580 ローソンチケット 0570-084-005 Lコード：58117

e+（イープラス）<http://eplus.jp>

モバイルサイト GREENS!チケット <http://www.greens-corp.co.jp/>

お問合せ：にっぽん文楽プロジェクト 03-6233-8948（平日10:00～17:00）

主催：日本財団 制作：にっぽん文楽プロジェクト

制作協力：独立行政法人 日本芸術文化振興会／公益財団法人文楽協会

後援：文化庁／大阪市／公益財団法人 関西・大阪21世紀協会／NHK大阪放送局



総合プロデューサー 中村雅之 (横浜能楽堂館長 / 明治大学大学院兼任講師)

劇場の中ではなく、屋外の開放的な空間で、飲みながら、食べながら、間近で文楽を見る—この夢を実現したのが「にっぽん文楽」です。

古代、難波宮があった大阪の都市文化の発祥の地で、文楽が「大阪のタカラ」「日本のタカラ」であることを多くの人に思い起こして欲しい、というのが、「にっぽん文楽プロジェクト」の願いです。

舞台は、移動自由の組立て式ですが、銘木の産地・吉野から切り出された檜をふんだんに使った本格的なもの。さらに豪華な金の飾り金具など細部にこだわりました。文楽の醍醐味を存分に味わっていただくため400席ほどに絞った木の客席をとり囲む木綿のまん幕には、伝統的な染めの技術で「にっぽん文楽」の紋が染め抜かれています。初めて公演した東京・六本木では「これほど本格的とは思わなかった」と驚きの声がかつていました。

開場は、開演の2時間前。持ち込みも自由。好きな食べ物・飲み物を楽しみながら、ゆったりとした時の流れの中、空間全体を味わっていただければ幸いです。開演後、太夫・三味線・人形の解説、加えて運が良ければ舞台上で人形遣いの体験もできます。会場内では、NPO文楽座の文楽グッズ、文楽せんべいの販売もあります。

演目は、文楽ゆかりの地・道頓堀の開削400年を祝い「二人三番叟」、そしてドラマチックでエンターテインメント性十分の「本朝廿四孝 奥庭狐火の段」を選びました。短い演目ですから、事前に本やインターネットで、あらすじを頭に入れておけば、初めての人でも、心に余裕を持って見ることが出来ます。

大阪初お目見えの今回は、幅広い活躍をする人気の人形遣い・桐竹勘十郎、師匠の名跡を襲名したばかりの吉田玉男を始めとした豪華な顔ぶれが揃いました。

空前絶後の「野外劇場」での芝居見物をお楽しみください。

演目・出演

太夫・三味線の解説 / 豊竹靖大夫、鶴澤清丈
人形の解説と人形遣い体験 / 吉田一輔

ににさんばそう

「二人三番叟」

太夫 / 豊竹睦大夫、豊竹芳穂大夫、豊竹靖大夫
三味線 / 鶴澤清丈、鶴澤清丈、鶴澤清公、鶴澤清允
人形 / 三番叟: 吉田玉男
三番叟: 吉田幸助

ほんちょうにじゅうしこう

「本朝廿四孝 奥庭狐火の段」

太夫 / 竹本津駒大夫
三味線 / 鶴澤藤蔵、鶴澤清丈 琴 / 鶴澤清公
人形 / 八重垣姫: 桐竹勘十郎

人形 / 桐竹勘昇、桐竹勘次郎、桐竹勘介、吉田玉佳、吉田玉翔、
吉田玉勢、吉田玉延、吉田玉路、吉田玉征、吉田簀紫郎、
吉田簀次、吉田簀之 (五十音順)

お囃子: 望月大明藏社中

※内容・出演者に変更がある場合があります。あらかじめご了承ください。

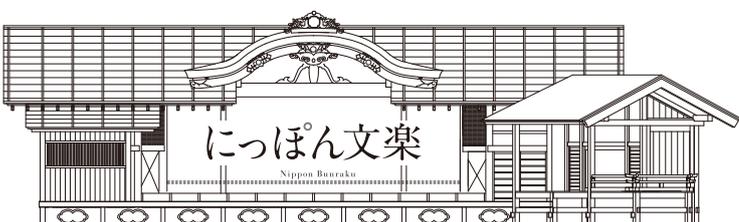
総合プロデューサー: 中村雅之

舞台監督: 山添寿人 / 舞台機構・大道具: 関西舞台 / 照明: 岡田有生 / 音響: 辻展章

建築設計・監理: 田野倉建築事務所 / 構造設計・監理: 福山弘構造デザイン

組立施工: 業の実建築工房 / 饅幕のぼり製作: 宮本卯之助商店

運営協力: グリーンズコーポレーション グラフィックデザイン: みやはらたかお



曲目解説

「二人三番叟」

国家安穩・五穀豊穡を祈り、能・文楽・歌舞伎などが生まれる以前から、日本の芸能の中で演じられ続けて来た「翁芸」の流れの中に位置する演目。

文楽の「寿式三番叟」では、千歳、翁、二人の三番叟が順番に登場して舞うが「二人三番叟」は、その中から三番叟を抜粋して演じるもの。三番叟は、種まき、実りなど稲作の様子を舞踊化したもの。性格の違う二人の三番叟が、鈴などを手に、変化にとんだ動きを見せる。「翁芸」が本来的に持つ荘厳さに滑稽味が加わる小品だ。

「本朝廿四孝 奥庭狐火の段」

1766 (明和3) 年、大坂・竹本座初演。全五段に分かれ、「奥庭狐火の段」は、四段目の一部。ドラマチックであると同時に、ヒロインの八重垣姫に霊力を持った狐がからみ、人形浄瑠璃のエンターテインメント性を堪能することが出来ることから人気の部分で、上演される機会も多い。桐竹勘十郎得意の演目だ。

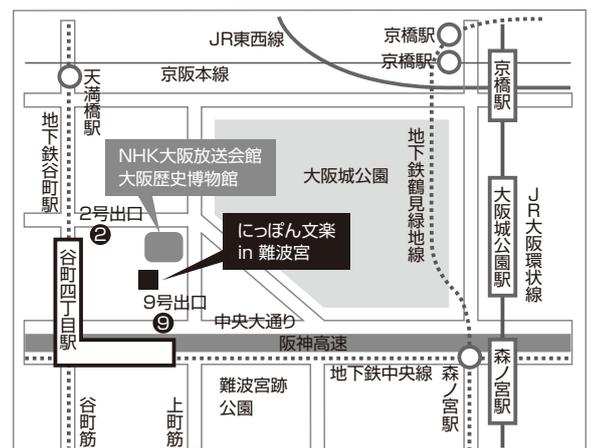


交通のご案内

●電車・バスでお越しの方

地下鉄谷町線・中央線「谷町四丁目駅」2号・9号出口

大阪市営バス「馬場町」バス停前



住所: 〒540-0008 大阪府大阪市中央区大手前4丁目

にっぽん文楽 in 難波宮 特別企画

開演前、会場内では文楽の義太夫・三味線・人形それぞれの魅力や、組み立て舞台はどんなものかを体感できる特別企画を用意しています。写真撮影自由。文楽グッズ販売等もございますので、開演前のひとときをどうぞお楽しみください。

組立舞台解説・見学 【解説役】 田野倉徹也（建築設計） / 宮大工（菜の実建築工房）

組立舞台は、昨年9月、銘木の産地である吉野から切り出された檜をふんだんに使ってつくられたものです。そもそも組立舞台とは何か、どうやってつくりあげるのかをお話します。



太夫・三味線の解説 【解説役】 太夫：豊竹靖大夫 / 三味線：鶴澤清丈

人形浄瑠璃文楽は、太夫・三味線・人形の3つの要素で成り立っています。太夫が語る義太夫節の独特な語り口や、それに合わせる三味線の演奏について、実演も踏まえながらその魅力に迫ります。

人形の解説・体験 【解説役】 人形：吉田一輔

文楽の人形は、1体を3人がかりで操作する、世界でも珍しい技法を使います。3人の人形遣いの役割や人形の仕組みなどの解説、運が良ければ実際に人形遣いの体験もできます。

グッズ販売、会場内写真撮影など 店舗：NPO文楽座、文楽せんべい本舗、純米酒なっく

開演前は解説中もすべて写真撮影が可能です！総檜の舞台、幟や幔幕など「和」の非日常空間の中で、文楽人形とのツーショット撮影はいかがですか？NPO文楽座オリジナルグッズや文楽せんべい、日本酒などの販売もございます。

【タイムスケジュール】

グッズ販売、会場内写真撮影など：開場～開演まで

組立舞台解説・見学（約20分）：

昼の部：12：30～12：50 / 夜の部：17：00～17：20

太夫・三味線解説 / 人形解説・体験（それぞれ約30分）：

昼の部：①13：00～13：30、②公演中「二人三番叟」終了後
夜の部：①17：30～18：00、②公演中「二人三番叟」終了後

太夫・三味線解説 / 人形解説・体験は、各回、実施時間が入れ替わります。

	17日		18日		19日		20日	
	①	②	①	②	①	②	①	②
昼の部	太・三	人形	人形	太・三	太・三	人形	人形	太・三
夜の部	人形	太・三	太・三	人形	人形	太・三	太・三	人形

※内容・出演者に変更がある場合があります。あらかじめご了承ください。

にっぽん文楽 in 浅草観音

浅草寺で、名作「壺坂」

飲みながら 食べながら 文楽の魅力を再発見

前日には、人形と共に「お練り」

1億円を掛けたヒノキ造りの本格的な組み立て舞台を持って、「2020東京オリンピック」まで、全国を回る「にっぽん文楽」の公演が、東京に戻り、2016年10月15日から18日まで、「興行の聖地」である浅草・浅草寺で開かれる。

「にっぽん文楽プロジェクト」は、日本を代表する古典芸能である「文楽」の価値を広く認識してもらうことを目指し、日本財団が立ち上げた。2015年の六本木ヒルズでの公演を皮切りに、10月には大阪でも開催された。

「にっぽん文楽」は、「飲みながら 食べながら 文楽」のキャッチフレーズを掲げ、劇場ではタブーともされる飲食自由の公演スタイルが特徴。浅草は、「興行の聖地」であると同時に、「グルメの街」でもある。お気に入りの食べ物・飲み物を自由に持ち込んでもらい、普段は劇場に足を運ばない人たちにも、ゆったりと寛ぎながら文楽を楽しんでもらおう、というものだ。

「組み立て舞台」は、銘木の産地・吉野から切り出されたヒノキをふんだんに使って作られた幅約19・7尺、高さ6・7尺にもおよぶ本格的なもの。木綿の生地に藍を使って「にっぽん文楽」の紋を染めた幔幕が、客席全体を囲む。そこに客席として縁台が置かれる。定員は350席ほど。会場は、浅草寺本堂裏で、「東京スカイツリー」が舞台の借景となり、「江戸と大坂」「伝統と革新」が交差する光景が生まれる。

出演者は、三味線が豊澤富助、人形が吉田和生・吉田玉男ら一線級の顔ぶれ。演目は、弁慶と牛若丸のお馴染みの伝説に基づいて作られた「五条橋」、「観音様」を本尊とする浅草寺での開催にちなみ、奈良の壺坂寺に祀られている「観音様」のご利益を描いた名作「壺坂霊験記 山の段」を上演。

公演に先立ち、前日の14日は、雷門から仲見世通りを通り、浅草寺本堂まで「お練り」を行う。出演者が人形と共に練り歩き、本堂で公演の成功を祈り法要が行われる。文楽の「お練り」は、大阪でも行われていない珍しいものだ。

公 演 概 要

○公演タイトル

につぼん文楽 in 浅草観音

○日時

2016年10月15日(土)～18日(火)

[昼の部] 開場 11:30 開演 12:30 [夜の部] 開場 17:00 開演 18:00

○会場

浅草・浅草寺境内(本堂裏)

○演目・出演

「五条橋」

太 夫：【牛若丸】豊竹睦太夫、【弁慶】竹本小住太夫

三味線：野澤喜一郎、豊澤龍爾、鶴澤燕二郎

人 形：【牛若丸】吉田文昇、【弁慶】吉田玉佳

「壺坂観音霊験記 山の段」

太 夫：豊竹靖太夫

三味線：豊澤富助、豊澤龍爾

人 形：【女房お里】吉田和生、【座頭沢市】吉田玉男、【観世音】吉田玉延

「解説」

太 夫：豊竹靖太夫／三味線：豊澤龍爾／人 形：吉田玉翔

人形部：吉田玉誉、吉田玉彦、吉田玉路、吉田和馬、吉田玉征

囃 子：望月太明藏社中

※内容・出演者に変更がある場合があります。あらかじめご了承ください。

○席料

2,000円(全席自由)

○チケット予約 ※発売中

チケットぴあ(0570-02-9999 Pコード:452270)

ローソンチケット(0570-084-0003 Lコード:31714)

○問い合わせ

につぼん文楽プロジェクト(TEL03-6233-8948、平日10:00～17:00)

(<http://www.nipponbunraku.com>)

総合プロデューサー：中村雅之

アシスタントプロデューサー：榎本かおり (BOX4628) / アドバイザー：宮本芳彦 (宮本卯之助商店)
/ グラフィックデザイン：みやはらたかお

舞台監督：山添寿人 / 舞台機構・大道具：関西舞台 / 音響・照明：ピーエーシーウエスト / 運営：ミ
ューズメントワークス

建築設計・監理：田野倉建築事務所 / 構造設計・監理：福山弘構造デザイン /
組立施工：菜の実建築工房 / 幔幕製作・施工：宮本卯之助商店

主催：日本財団

制作：一般財団法人 につぼん文楽プロジェクト

制作協力：公益財団法人 文楽協会

特別協力：浅草寺

協力：独立行政法人 日本芸術文化振興会

後援：文化庁、東京都、台東区

○演目解説

「五条橋」

全五段の「鬼一法眼三略巻」の最後が「五条橋」。独立して演じられる場合もある。

牛若丸、後の源義経は、父・義朝が「平治の乱」で敗れたため、鞍馬山に預けられる。源氏再興を心に秘めた牛若丸は、味方になる剛腕の家来を探すため、夜な夜な山を降り、五条橋で待ち受け、これぞと思う者に闘いを挑み、相手の腕を試していた。そこに荒法師・武蔵坊弁慶が現れ、二人は激しい闘いを繰り広げる。

兄・頼朝に追われ奥州・平泉で最期を遂げる義経と、その義経に最後まで付き従うことになる弁慶との出会いを劇的に描いた「景事物」。「景事物」とは、文楽で音楽性豊かな舞踊の要素が強い小品の事を言う。

牛若丸の身軽さが人形で巧みに表現されており、弁慶が「七つ道具」を武器に闘うところも見どころだ。

「壺坂靈験記」

大和国・壺阪寺近くに住む盲目の沢市は、琴・三味線を教えることを生業として妻・お里とつましい暮らしをしていた。沢市は、お里が毎日同じ時刻に、何も告げず出掛けるので、他に男でも出来たのではないかと疑う。夫の疑いを知ったお里は、沢市の眼が見えるようになるよう壺阪寺の観音に願掛けに行っていたことを明かす。沢市はお里に侘びる。今日は、その満願の日。二人は、険しい崖の上に建つ壺阪寺を目指し山路を上る。

〈今回上演される「山の段」は、この後から始まる〉。

険しい崖の上に建つ壺阪寺に着くと沢市は、3日の間、堂に籠って祈願をしようと言い出す。そこで、お里は、身の回りの物を取りに、ひとまず家へ戻る。眼が見えない身では、お里に苦勞を掛けるばかりと思い詰めていた沢市は、お里がいなくなったのを見計らって崖から身を投げる。戻って来たお里は、沢市の死骸を見付けると、自分も後を追う。やがて岩の間から観音が現れ、お里の貞節と信仰の篤さを褒め、二人を蘇らせ、沢市の眼も見えるようになる。息を吹きかえした二人は、喜び、観音に感謝するのだった。沢市とお里の夫婦愛を美しく描き出している。

明治12（1879）年初演。音楽性に優れ、近代に出来た作品の中では、珍しく名作として受け継がれている。

につぼん文楽 in 浅草観音 実施報告

○事業概要

公演名：につぼん文楽 in 浅草観音

公演期間：平成28年10月15日（土）から平成28年10月18日（火）

[昼の部] 開場 11:30 開演 12:30 [夜の部] 開場 17:00 開演 18:00

会場：浅草・浅草寺境内（本堂裏）〒111-0032 東京都台東区浅草 2-3-1

入場料：2,000円

主催：日本財団 / 制作：につぼん文楽プロジェクト

制作協力：公益財団法人文楽協会

特別協力：浅草寺

協力：独立行政法人日本芸術文化振興会

後援：文化庁 / 東京都 / 台東区

○実施結果の概要

上記のとおり実施。

※10月17日（月）昼の部・夜の部は雨天により中止のため実施公演は全6回

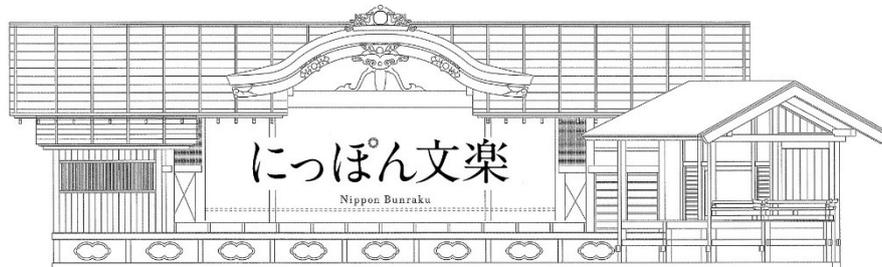
入場者数：2001名 ※有料・招待含む

○所感

江戸時代からの興行のメッカ・浅草。その浅草の中心・浅草寺の境内が会場。舞台は、東京スカイツリーを借景として建てられた。夜は、東京スカイツリーに月が掛るなど、野外ならではの幻想的な雰囲気にも包まれた。公演前日には、雷門から浅草寺本堂まで伸びる仲見世商店街で「お練り」が行われた。内外からの観光客で賑わう中、「につぼん文楽」の幟を立て、人形を先頭に、太夫・三味線や関係者が賑やかに練り歩いた後、本堂で成功祈願の法要が行われ、人形も観音様に手を合わせた。



写真上：上演中の様子（演目：五条橋）
写真中・右：上演中の様子(人形解説)
写真中・左：休憩時間、人形との記念撮影会
写真下：浅草寺お練りの様子



にっぽん文楽シンポジウム 「日本の芸能と信仰」

今年10月、浅草寺本堂裏に本格的なヒノキ造りの舞台を特設し「にっぽん文楽 in 浅草観音」公演が行われる。これを前に、にっぽん文楽シンポジウム「日本の芸能と信仰」が開催される。

歴史的に、信仰は芸能と深い関わりを持って来た。というよりも、能の原点が「翁」であるように、信仰の中から芸能は生まれた。「芸能の源は信仰にある」と言っても過言ではないだろう。浅草寺にも、「三大寺舞」と呼ばれる「金龍の舞」「白鷺の舞」「福聚の舞」が伝わる。

また、能・文楽・歌舞伎を始めとした伝統芸能作品の中には、寺社を物語の舞台とするなど、縁起物語を典拠として作られた作品が数多くある。全国各地に伝わる民俗芸能には、信仰そのもの、といったものもある。シンポジウムでは、3人のパネラーが、それぞれの視点から「信仰と芸能」について語る。

日 時：2016年9月21日（水）13：00～

会 場：パウ・ルーム（東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル1階ロビー）

パネラー：田中英機（元実践女子大学教授、元文化庁主任調査官）

壬生真康（浅草寺寿命院住職、聖観音宗宗務庁参務・教化部執事・勸学所長・寺史編纂主任 等）

中村雅之（にっぽん文楽総合プロデューサー、横浜能楽堂館長、明治大学大学院兼任講師、東京都芸術文化評議会専門委員）

司 会：氷川まりこ（伝統芸能ジャーナリスト）

参加費：無 料

お申込み：①氏名 ②参加人数 ③電話番号 ④FAX番号（お持ちの方のみ）を明記の上、FAXもしくはE-mailでお申込みください。

FAX：03-6233-8947/E-mail：info@nipponbunraku.com

※先着順、定員に達しましたらお申込みは締め切らせて頂きます。

お問合せ：にっぽん文楽プロジェクト TEL：03-6233-8948（平日10：00～17：00）

主催：にっぽん文楽プロジェクト／助成：日本財団

後援：文化庁

Supported by  日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

にっぽん文楽 in 浅草観音

2016年10月15日（土）～18日（火） 昼12:30/夜18:00 会場：浅草・浅草寺境内（本堂裏）

チケット：2,000円（自由席） チケットぴあ、ローソンチケットにて発売中

演 目：「五条橋」豊竹睦太夫、野澤喜一朝、吉田文昇ほか

「壺坂観音霊験記 山の段」豊竹靖太夫、豊澤富助、吉田和生、吉田玉男ほか

にっぽん文楽

Nippon Bunraku

in 浅草観音

飲みながら
食べながら
文楽の
名作

「五条橋」

豊竹睦太夫、野澤喜朗、吉田文昇ほか

「壺坂観音霊験記」

豊竹靖太夫、豊澤富助、吉田和生、吉田玉男ほか

山の段

総合プロデューサー 中村雅之

2016年10月15日(土)～18日(火)

[昼の部] 開場11:30 開演12:30

[夜の部] 開場17:00 開演18:00

※雨天荒天の場合は中止となります。中止のご連絡は、にっぽん文楽ホームページ (<http://www.nipponbunraku.com>) でお知らせします。

※会場は屋外のため、寒暖対策には十分ご注意ください。※会場内での飲食および持ち込みは自由です。

会場：浅草・浅草寺境内（本堂裏）

チケット料金：2,000円（自由席）チケット発売：7月1日から

チケット取扱い：**チケットぴあ** 0570-02-9999 Pコード：452270

ローソンチケット 0570-084-003 Lコード：31714

お問合せ：にっぽん文楽プロジェクト 03-6233-8948（平日10:00～17:00）

写真：青木信二

主催／日本財団 制作／一般財団法人 にっぽん文楽プロジェクト 制作協力／公益財団法人 文楽協会
特別協力／浅草寺 協力／独立行政法人 日本芸術文化振興会
後援／文化庁、東京都（申請中）、台東区

日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

2つの観音様のご利益－浅草寺に参詣し、「壺坂」を見る

総合プロデューサー 中村雅之(横浜能楽堂館長/ 明治大学大学院兼任講師/ 東京芸術文化評議会専門委員)

関東と関西で名高い「観音様」といえば、浅草寺の「浅草観音」と壺坂寺の「壺坂観音」。
浅草寺は、江戸開府以降、江戸庶民の信仰の中心として全国的に知られてきました。一方、壺坂寺が全国的に有名になったのは、明治に入り文楽の「壺坂観音霊験記」が初演されてから。盲目の沢市とお里夫婦の愛情物語が人々の心の琴線に触れ大人気を呼び、一躍、全国的に知られることとなります。

東京・六本木ヒルズ、大阪・難波宮に続き3回目になる「にっぽん文楽」。今回は、浅草寺での開催にちなみ文楽の名曲「壺坂観音霊験記」を上演します。太夫は新進気鋭の豊竹靖太夫、三味線はベテランの豊澤富助、人形は、「女房お里」をベテランの吉田和生、「座頭沢市」を昨年、師匠の名跡を継いで大きな話題になった吉田玉男が勤めます。見ごたえ・聴きごたえのある組み合わせです。

そしてもう1曲は、弁慶と牛若丸の出会いを描き、文楽を初めて見る人でも楽しめる「五条橋」を上演します。

舞台は、移動自由の組立て式ですが、銘木の産地・吉野から切り出された檜をふんだんに使った本格的なもの。さらに金の飾り金具が、豪華さを演出しています。木綿のまん幕には、伝統的な染めの技術で「にっぽん文楽」の紋が染め抜かれています。初めて目にした人からは、「これほど、すべてに本格的とは思わなかった」と驚きの声が上がります。

劇場の中ではなく、屋外の開放的な空間で、飲みながら、食べながら、間近で文楽を見る。このコンセプトは、今回も変わりません。

浅草は、「仲見世」を中心に、大阪にも負けない「食い倒れ」のまち。六本木・難波宮のように、飲食物の場内での販売は取っていません。好きな飲み物・食べ物を持って、ご来場ください。開場は、開演の1時間前。会場内、飲んで食べて、開演までの時間をゆったりお過ごしください。開演してからも飲食自由ですが、出演者の熱演に、思わず手が止まってしまうこと請け合いです。

ぜひ「浅草観音」にお参りした後、「壺坂観音霊験記」をご覧ください。きっとこれで、2つの「観音様」のご利益があることでしょう。

演目・出演

ごじょうばし

「五条橋」

太夫/牛若丸:豊竹睦太夫、弁慶:竹本小住太夫
三味線/野澤喜一郎、豊澤龍爾、鶴澤燕二郎
人形/牛若丸:吉田文昇、弁慶:吉田玉佳

つばさかんのんれいげんき

「壺坂観音霊験記 山の段」

太夫/豊竹靖太夫
三味線/豊澤富助、豊澤龍爾
人形/女房お里:吉田和生、座頭沢市:吉田玉男、観世音:吉田玉延

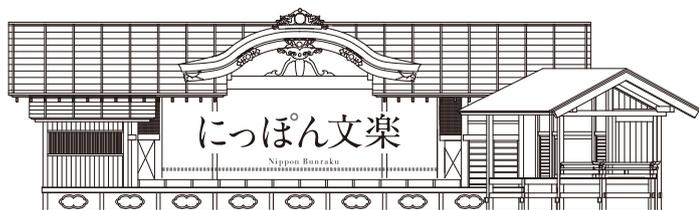
「解説」

太夫:豊竹靖太夫/三味線:豊澤龍爾/人形:吉田玉翔

人形部:吉田玉誉、吉田玉彦、吉田玉路、吉田和馬、吉田玉征
囃子:望月大明藏社中

※内容・出演者に変更がある場合があります。あらかじめご了承ください

舞台監督:山添寿人/舞台機構・大道具:関西舞台/音響・照明:ピーエーシーウエスト
組立施工:葉の実建築工房/幔幕製作・施工:宮本卯之助商店
運営:ミュージメントワークス
建築設計・監理:田野倉建築事務所/構造設計・監理:福山弘構造デザイン
アドバイザー:宮本芳彦(宮本卯之助商店)/グラフィックデザイン:みやはらたかお
アシスタントプロデューサー:榎本かおり (BOX4628)
総合プロデューサー:中村雅之



演目解説

「五条橋」

全五段の「鬼一法眼三略巻」の最後が「五条橋」。独立して演じられる場合もある。
牛若丸、後の源義経は、父・義朝が「平治の乱」で敗れたため、鞍馬山に預けられる。源氏再興を心に秘めた牛若丸は、味方になる剛腕の家来を探すため、夜な夜な山を降り、五条橋で待ち受け、これぞと思う者に闘いを挑み、相手の腕を試していた。そこに荒法師・武蔵坊弁慶が現れ、二人は激しい闘いを繰り広げる。

兄・頼朝に追われ奥州・平泉で最期を遂げる義経と、その義経に最後まで付き従うことになる弁慶との出会いを劇的に描いた「景事物」。「景事物」とは、文楽で音楽性豊かな舞踊の要素が強い小品の事を言う。

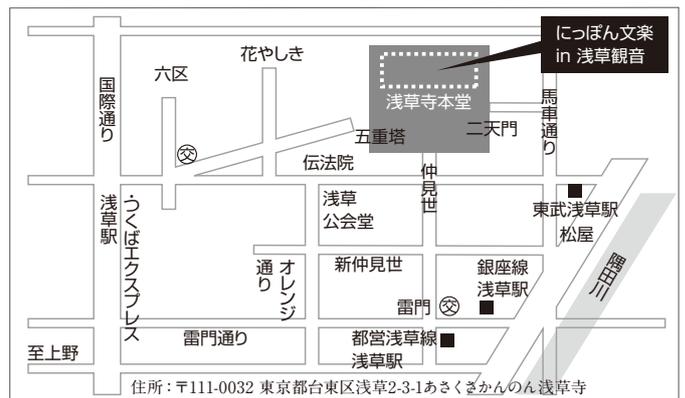
牛若丸の身軽さが人形で巧みに表現されたり、弁慶が「七つ道具」を武器に闘うところも見どころだ。

「壺坂観音霊験記」

大和国・壺坂寺近くに住む盲目の沢市は、琴・三味線を教えることを生業として妻・お里とつましい暮らしをしていた。沢市は、お里が毎日同じ時刻に、何も告げず出掛けるので、他に男でも出来たのではないかと疑う。夫の疑いを知ったお里は、沢市の眼が見えるようになるよう壺坂寺の観音に願掛けに行っていたことを明かす。沢市はお里に詫げる。今日は、その満願の日。二人は、険しい崖の上に建つ壺坂寺を目指し山路を上る。(今回上演される「山の段」は、この後から始まる)。

険しい崖の上に建つ壺坂寺に着くと沢市は、3日の間、堂に籠って祈願をしようと言いつくす。そこで、お里は、身の回りの物を取りに、ひとまず家へ戻る。眼が見えない身では、お里に苦勞を掛けるばかりかと思いつめていた沢市は、お里が、いなくなったのを見計らって崖から身を投げる。戻って来たお里は、沢市の死骸を見付けると、自分も後を追う。

やがて岩の間から観音が現れ、お里の貞節と信仰の篤さを褒め、二人を蘇らせ、沢市の眼も見えるようになる。息を吹きかえた二人は、喜び、観音に感謝するのだった。沢市とお里の夫婦愛を美しく描き出している。明治12(1879)年初演。音楽性に優れ、近代に出来た作品の中では、珍しく名作として受け継がれている。



～特別奉納公演～
にっぽん文楽 in 伊勢神宮

みんなで楽しむ「バリアフリー文楽」

- 伊勢神宮特別奉納公演 -

より多くの人たちに「日本のタカラ」である「文楽」の価値を知ってもらおう、と、2015年から始まった「にっぽん文楽」の公演。舞台は、移動自由の組立て式で、銘木の産地・吉野から切り出されたヒノキ材をふんだんに使って作られた幅約19.7メートル、高さ6.7メートルにもおよぶ本格的なもの。木綿に伝統的な染めの幔幕が、客席をぐるりと囲む。定員は300～400人。間近で文楽を楽しむことができる。

東京・六本木ヒルズ、大阪・難波宮、東京・浅草観音と回り、今回は日本文化の原点とも言える伊勢神宮の外宮前での開催が実現。

「太夫」は4月に六代豊竹呂太夫を襲名する豊竹英太夫、「三味線」は鶴澤清介、「人形」は桐竹勘十郎と、豪華な顔ぶれが揃う。曲目は、「奉納公演」に相応しく祝儀物の「二人三番叟」、桜の名所・吉野山を舞台とした華やかな名作「義経千本桜 道行初音旅」の二つ。

伊勢の神々に文楽をご覧いただく「奉納公演」として「入場無料の招待制」で公演を行う。

特に、障がいを持った方たちにも楽しんでいただきたい、と、聴覚障害の方には「スマートフォン」を使った文字情報の配信、視覚障害の方には「イヤホンガイド」などを導入した「バリアフリー文楽」として、みんなで文楽を楽しんでもらおうという狙いだ。

公 演 概 要

○公演タイトル

～特別奉納公演～につぼん文楽 in 伊勢神宮

○日 時

2017年3月11日（土）～14日（火）

[昼の部] 開場 12:00 開演 13:00

[夜の部（11日・12日）] 開場 15:30 開演 16:30

[夜の部（13日・14日）] 開場 17:30 開演 18:30

○会 場

伊勢神宮・外宮特設舞台（外宮第二駐車場）

○演目・出演

「二人三番叟」

太 夫：豊竹英太夫、豊竹芳穂太夫、豊竹亘太夫

三味線：鶴澤清介、竹澤團吾、鶴澤寛太郎、鶴澤清允

人 形：[三番叟] 吉田勘市

[三番叟] 吉田一輔

「義経千本桜 道行初音旅」

太 夫：[静御前] 竹本文字久太夫

[狐忠信] 豊竹芳穂太夫 ツレ：竹本小住太夫

三味線：鶴澤藤蔵、鶴澤寛太郎、鶴澤清允

人 形：[静御前] 吉田勘彌

[忠信実は源九郎狐] 桐竹勘十郎

○入場無料（要整理券）

※往復はがきによる事前申込制

○バリアフリーのサポート態勢

●視覚障がい者向け 点字チラシ・パンフレット、イヤホンガイド

●聴覚障がい者向け 上演時字幕配信（タブレット端末使用。事前予約制）

●途中入退場可

※その他ご要望により適宜対応

○お問い合わせ

にっぽん文楽プロジェクト TEL：03-6233-8948（平日 10：00－17：00）
ホームページ <http://nipponbunraku.com>

主催：日本財団 制作：一般財団法人 にっぽん文楽プロジェクト

制作協力：公益財団法人 文楽協会

特別協力：伊勢司庁

協力：独立行政法人 日本芸術文化振興会、公益社団法人 伊勢市観光協会、
伊勢市障害者団体連合会、クラブツーリズム株式会社、近畿日本鉄道株式会社
後援：伊勢市

総合プロデューサー：中村雅之

アシスタントプロデューサー：榎本かおり（BOX4628）／アドバイザー：宮本芳彦（宮本卯之助商店）
／グラフィックデザイン：みやはらたかお

舞台監督：山添寿人／舞台機構・大道具：関西舞台／音響・照明：ピーエーシーウエスト／運営：
ミュージメントワークス

建築設計・監理：田野倉建築事務所／構造設計・監理：福山弘構造デザイン／組立施工：菜の実建築工房
／幔幕製作・施工：宮本卯之助商店

○演目解説

「二人三番叟」

国家安穩・五穀豊穰を祈り、能・文楽・歌舞伎などが生まれる以前から、日本の芸能の中で演じられ続けて来た「翁芸」の流れの中に位置する演目。文楽の「寿式三番叟」では、千歳、翁、二人三番叟が順番に登場して舞うが、「二人三番叟」は、その中から三番叟を抜粋して演じるもの。三番叟は、種まき、実りなど稲作の様子を舞踊化したもの。性格の違う二人の三番叟が、鈴などを手に、変化にとんだ動きを見せる。「翁芸」が本来的に持つ荘厳さの中に滑稽味が加わる小品だ。

「義経千本桜 道行初音旅」

全体としては、平家との戦いで大きな功績があったにも関わらず兄・頼朝に疎まれてしまった源義経が、都落ちして行く物語が大きな柱としてある。しかし、それぞれの段は、「オムニバス形式」で、義経の周辺にいる人々を中心に展開して行く。「道行初音旅」は、義経の忠臣・佐藤忠信に化けた源九郎狐に義経と愛妾・静御前がからみ、桜満開の吉野山を背景に華やかに物語が展開される。「院（後白河法皇）」を操る悪漢・藤原朝方は、「初音の鼓」を下賜させる。鼓を「打て」に、頼朝を「討て」という意味が込められていたのだった。義経と頼朝との溝を広げようと画策しているのだ。しかし、義経は鼓を受け取りながらも、「けして討つまい」と心に決めていた。それでも状況は悪化し、義経一行は追い詰められ、落ち延びることになる。伏見で、愛妾・静御前に「初音の鼓」、佐藤忠信には愛用の鎧を与え別れる。

〈今回上演される「道行初音旅」は、この後から始まる〉

義経が、吉野山に隠れていると聞いた静御前は、佐藤忠信（実は源九郎狐）を伴い初春の山道を急ぐ。途中、忠信を見失った静が、義経のことを思い、鼓を打っていると、どこからともなく佐藤忠信が現れた。忠信は、義経から賜った鎧を恭しく取り出す。忠信は、この鎧を賜ったのも、兄・継信が屋島の戦いで討ち死にしたことがあってこそ、と語り涙する。再び二人は、峠を越え、吉野山にたどり着く。

～特別奉納公演～につぼん文楽 in 伊勢神宮 実施報告

○事業概要

公演名：～特別奉納公演～につぼん文楽 in 伊勢神宮

公演期間：平成 29 年 3 月 11 日（土）から平成 29 年 3 月 14 日（火）

昼の部 12：00 開場 13：00 開演／

夜の部(11 日・12 日) 15：30 開場 16：30 開演

夜の部(13 日・14 日) 17：30 開場 18：30 開演

会場：三重県・伊勢神宮外宮特設舞台(外宮第二駐車場)

入場料：無料 ※往復はがきによる事前申し込み制

主催：日本財団／制作：につぼん文楽プロジェクト

制作協力：公益財団法人文楽協会／特別協力：神宮司庁

協力：独立行政法人日本芸術文化振興会、公益社団法人伊勢市観光協会、伊勢市障害者団体連
合会、クラブツーリズム株式会社、近畿日本鉄道株式会社

後援：三重県、伊勢市

○実施結果の概要

上記のとおり実施。※3 月 13 日（月）夜の部は雨天により中止、実施公演：全 7 回

入場者数：2300 名

○所感

日本文化の原点・伊勢神宮外宮の鳥居近くに舞台が建てられた。古くから「伊勢参り」の人々で賑う土地。市は、誰でもが訪れることが出来るようにと「バリアフリー観光」を推進し、日本財団も、長年、福祉事業に取り組んで来た。そこで、伊勢公演では、障がい者の方々にも楽しんでもらえるよう、イヤホンガイドや文字情報を流すなどサポート態勢を整え、文楽の世界では初めて「バリアフリー文楽」として行われた。公演前日には、観光客で賑わう内宮門前のおはらい町で、華やかに「お練り」が行われた。

写真資料

3/11~14 につぽん文楽 in 伊勢神宮公演の様子



聴覚障害者用、字幕配信タブレット等を導入



休憩時間を使った、人形との記念撮影会



3/10 おはらい町でのお練りの様子



～特別奉納公演～

にっぽん文楽

Nippon Bunraku

in 伊勢神宮

みんなで楽しむ「バリアフリー文楽」

「二人三番叟」

豊竹英太夫、鶴澤清介、吉田勘市ほか

「義経千本桜」

道行初音旅

竹本文字久太夫、鶴澤藤蔵、桐竹勘十郎ほか

総合プロデューサー：中村雅之



2017年3月11日(土)～14日(火)

[昼の部] 開場12:00 開演13:00

[夜の部 (11日・12日)] 開場15:30 開演16:30

[夜の部 (13日・14日)] 開場17:30 開演18:30

※雨天荒天の場合は中止となります。中止のご連絡は、にっぽん文楽ホームページ (<http://www.nipponbunraku.com>) でお知らせします。

※当日、外宮駐車場は利用できません。会場周辺には有料駐車場はございますが可能な限り公共交通機関をご利用ください。

※会場は屋外のため、防寒対策の設備はございません。防寒には、十分ご注意ください。

※伊勢神宮城内および会場内での飲食は禁止です。

会場：伊勢神宮 外宮特設舞台

入場無料 (要整理券)

整理券申込方法 (2月15日申込メ切。申込者多数の場合は抽選となります。)

往復はがきに以下をご記入の上、にっぽん文楽プロジェクトへお申込みください。

- (1) お名前 (2) ご住所 (3) お電話番号
- (4) ご希望の枚数 ※4枚まで
- (5) 第1希望の公演
- (6) 第2希望の公演
- (7) 第3希望の公演

※右の表から記号をお選びください

	13:00開演	16:30開演	18:30開演
11日(土)	A-1	A-2	-
12日(日)	B-1	B-2	-
13日(月)	C-1	-	C-2
14日(火)	D-1	-	D-2

ご応募先：〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-31-8 高田馬場ダイコンプラザ420 にっぽん文楽プロジェクト 伊勢公演申込係

お問合せ：にっぽん文楽プロジェクト (TEL 03-6233-8948、平日10:00～17:00) <http://www.nipponbunraku.com>

写真：青木信二

主催：日本財団 制作：一般財団法人 にっぽん文楽プロジェクト 制作協力：公益財団法人 文楽協会

特別協力：神宮司庁 協力：独立行政法人 日本芸術文化振興会、公益社団法人 伊勢市観光協会、伊勢市障害者団体連合会、

クラブツーリズム株式会社、近畿日本鉄道株式会社 後援：伊勢市

みんなで楽しむ「バリアフリー文楽」 - 伊勢神宮特別奉納公演

総合プロデューサー 中村雅之 (横浜能楽堂館長 / 明治大学大学院兼任講師 / 東京芸術文化評議会専門委員)

より多くの人たちに、「日本のタカラ」である「文楽」の価値を知ってもらおう、と2015年から始まった「にっぽん文楽」の公演。舞台は、移動自由の組立て式ですが、銘木の産地・吉野から切り出された檜をふんだんに使った本格的なもの。さらに金の飾り金具が、豪華さを演出しています。本綿のまん幕には、伝統的な染めの技術で「にっぽん文楽」の紋が染め抜かれています。初めて目にした人からは、「これほど、すべてに本格的とは思わなかった」と驚きの声が上がります。東京・六本木ヒルズ、大阪・難波宮、東京・浅草観音と回り、今回は、日本文化の原点とも言える伊勢神宮の外宮前で開催されることになりました。

「太夫」は4月に六代豊竹呂太夫を襲名する豊竹英太夫、「三味線」は鶴澤清介、「人形」は桐竹勘十郎と豪華な顔ぶれが揃いました。曲目は、「奉納公演」に相応しく祝儀物の「二人三番叟」、桜の名所・吉野山を舞台とした華やかな名作「義経千本桜 道行初音旅」の二つ。短い演目ですから、あらかじめ粗筋を頭に入れておけば、初めての人でも、心に余裕を持って見ることが出来ます。

伊勢の神々に文楽をご覧いただく「奉納公演」ですので、「**入場無料の招待制**」としました。応募要項に従って、ぜひご応募ください。特に、障がいを持った方たちにも楽しんでいただきたい、と**聴覚障がいの方には「スマートフォン」を使った文字情報の配信、視覚障がいの方には「イヤホンガイド」**などを導入した「バリアフリー文楽」としました。

「にっぽん文楽」の最終年である2020年には、「東京オリンピック・パラリンピック」が開催されます。それに併せ様々な文化プログラムも開催されます。この機会に、みんなで文楽をお楽しみいただけるよう願っています。

バリアフリーのサポート態勢

- 視覚障がい者向け 点字チラシ、点字パンフレット
- 聴覚障がい者向け 上演時字幕配信 (タブレット端末使用。事前予約制。)
- 視覚障がい者向け イヤホンガイド
- 途中入退場可 ※その他ご要望があれば事前にお問合わせください。

演目・出演

ににさんばそう

「二人三番叟」

太 夫 / 豊竹英太夫、豊竹芳穂太夫、豊竹巨太夫
三味線 / 鶴澤清介、竹澤團吾、鶴澤寛太郎、鶴澤清允
人 形 / 三番叟: 吉田勘市、三番叟: 吉田一輔

よしつねせんぼんざくら

「義経千本桜 道行初音旅」

太 夫 / 静御前: 竹本文字久太夫、狐忠信: 豊竹芳穂太夫
ツレ: 竹本小住太夫
三味線 / 鶴澤藤蔵、鶴澤寛太郎、鶴澤清允
人 形 / 静御前: 吉田勘彌、忠信実: 源九郎狐: 桐竹勘十郎

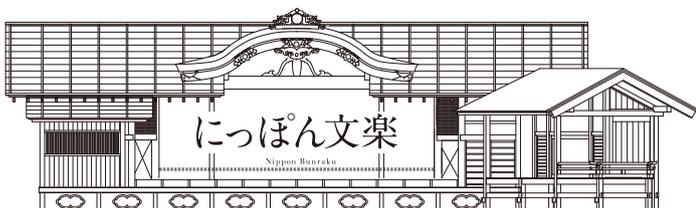
「解説」

太夫: 豊竹芳穂太夫 / 三味線: 鶴澤寛太郎 / 人形: 吉田簀紫郎

人形部: 桐竹紋吉、吉田簀太郎、桐竹勘次郎、桐竹勘介、
吉田簀悠、桐竹勘昇
囃 子: 望月天明藏社中

※内容・出演者に変更がある場合があります。あらかじめご了承ください

舞台監督: 山添寿人 / 舞台機構・大道具: 関西舞台 / 音響・照明: ピーエーシーウエスト
組立施工: 葉の実建築工房 / 幔幕製作・施工: 宮本卯之助商店
運営: ミュージメントワークス
建築設計・監理: 田野倉建築事務所 / 構造設計・監理: 福山弘構造デザイン
アドバイザー: 宮本芳彦 (宮本卯之助商店) / グラフィックデザイン: みやはらたかお
アシスタントプロデューサー: 榎本かおり (BOX4628)
総合プロデューサー: 中村雅之



演目解説

「二人三番叟」

国家安穩・五穀豊穡を祈り、能・文楽・歌舞伎などが生まれる以前から、日本の芸能の中で演じられ続けて来た「翁芸」の流れの中に位置する演目。文楽の「寿式三番叟」では、千歳、翁、二人の三番叟が順番に登場して舞うが、「二人三番叟」は、その中から三番叟を抜粋して演じるもの。三番叟は、種まき、実りなど稲作の様子を舞踊化したもの。性格の違う二人の三番叟が、鈴などを手に、変化にとんだ動きを見せる。「翁芸」が本来的に持つ荘厳さの中に滑稽味が加わる小品だ。

「義経千本桜 道行初音旅」

全体としては、平家との戦いで大きな功績があったにも関わらず兄・頼朝に疎まれてしまった源義経が、都落ちして行く物語が大きな柱としてある。しかし、それぞれの段は、「オムニバス形式」で、義経の周辺にいる人々を中心に展開して行く。

「道行初音旅」は、義経の忠臣・佐藤忠信に化けた源九郎狐に義経と愛妾・静御前がからみ、桜満開の吉野山を背景に華やかに物語が展開される。

「院 (後白河法皇)」を操る悪漢・藤原朝方は、「初音の鼓」を下賜させる。鼓を「打て」に、頼朝を「討て」という意味が込められていたのだった。義経と頼朝との溝を広げようと画策しているのだ。しかし、義経は鼓を受け取りながらも、「けて討つまい」と心に決めていた。それでも状況は悪化し、義経一行は追い詰められ、落ち延びることになる。伏見で、愛妾・静御前に「初音の鼓」、佐藤忠信には愛用の鎧を与え別れる。

〈今回上演される「道行初音旅」は、この後から始まる〉

義経が、吉野山に隠れていると聞いた静御前は、佐藤忠信 (実は源九郎狐) を伴い初春の山道を急ぐ。途中、忠信を見失った静が、義経のことを思い鼓を打っていると、どこからともなく佐藤忠信が現れた。忠信は、義経から賜った鎧を恭しく取り出す。忠信は、この鎧を賜ったのも、兄・継信が屋島の戦いで討ち死にしたことがあってこそ、と語り涙する。再び二人は、峠を越え、吉野山にたどり着く。



にっぽん文楽 in 上野の杜

日本の文化の拠点・上野で

飲みながら 食べながら

藝大とコラボで盛り上げ

文楽を野外で気軽に楽しんでもらおうと、ヒノキ造りの本格的な組み立て舞台を持って、「2020年東京オリンピック・パラリンピック」まで、全国を回る「にっぽん文楽」の公演が、再び東京に戻り、10月14日から17日まで、上野公園で開かれる。公演期間中には、東京藝術大学とのコラボレーション企画も展開される。

「にっぽん文楽プロジェクト」は、日本を代表する古典芸能である「文楽」の価値を広く知ってもらうことを目指し、日本財団が立ち上げた。2015年の東京・六本木ヒルズでの公演を皮切りに、これまで大阪・難波宮、東京・浅草寺、伊勢神宮外宮と全国を巡って来た。

今回の上野は、東京藝術大学、東京国立博物館、東京文化会館、都立上野動物園など日本の文化の拠点が揃っている土地。最近では、国と東京藝術大学が中心となり上野「文化の杜」構想を推進し注目を集めている。そこに文楽が加わった。

出演者は、太夫が竹本千歳太夫、三味線が豊澤富助、人形が吉田和生ら一線級の顔ぶれ。演目は、文楽では「景事」と呼ばれる舞踊の演目から2演目。四季それぞれを代表する人物が登場する「花競四季寿」の中で、春の「万才」と秋の「関寺小町」、鬼退治で有名な平安時代の豪傑・渡辺綱と美女に化けた恐ろしい鬼女との格闘を描く「増補大江山～戻り橋の段」を上演する。

初日・2日目の昼と夜の公演の合間には、会場周辺で、東京藝術大学との特別コラボレーション企画もあり、「にっぽん文楽」を盛り上げる。音楽学部学生の本邦・洋楽混成の音楽隊「藝大Artチンドン」が、作曲家である松下功副学長が作曲した曲を演奏しながら練り歩き、それに合わせて「せんとくん」で知られる彫刻家の簀内佐斗司教授が製作した巨大人形がパフォーマンスを繰り広げる。

「にっぽん文楽」は、「飲みながら 食べながら 文楽」のキャッチフレーズを掲げ、劇場ではタブーともされる飲食自由の公演スタイルが特徴だが、今回から新たな楽しみが加わった。埼玉・上尾で、百数十年にわたり丁寧な酒造りを続ける「酒蔵 文楽」の、にっぽん文楽限定ラベルの純米酒や甘酒が販売されるのだ。「人形浄瑠璃 文楽」にちなんで命名された蔵の酒を飲みながら文楽を見るのは乙なもの。もちろん自分のお気に入り酒やつまみを持ち込んでも構わない。

「組み立て舞台」は、銘木の産地・吉野から切り出されたヒノキ材をふんだんに使って作られた幅約19.7m、高さ6.7mにもおよぶ本格的なもの。木綿の生地に藍を使って「にっぽん文楽」の紋を染めた幔幕が、客席全体を囲む。そこに客席として縁台が置かれる。定員は300席ほどで、通常の文楽公演と比べ間近に舞台を楽しむことが出来る。

公 演 概 要

○公演タイトル

につぼん文楽 in 上野の杜

○日時

2017年10月14日(土)～17日(火)

[昼の部] 開場 11:30 開演 12:30 終演予定 14:00 頃

[夜の部] 開場 17:30 開演 18:30 終演予定 20:00 頃

○会場

上野恩賜公園(噴水前広場)

○演目

まんざい せきでらこまち はなくらべしきのことぶき
「万才・関寺小町」～花競四季寿より 榎茂都陸平 振付

太 夫／竹本千歳太夫、豊竹始太夫、竹本碩太夫

三味線／豊澤富助、野澤喜一郎、野澤錦吾

人 形／太夫：吉田文昇、才藏：吉田玉佳、関寺小町：吉田和生

ぞうほおおえやま もどりばしの だん
「増補大江山～戻り橋の段」

太 夫／若菜：豊竹睦太夫、渡辺綱：豊竹靖太夫、ツレ：竹本碩太夫

三味線／野澤錦糸、野澤喜一郎、八雲：鶴澤清丈、八雲：野澤錦吾

人 形／渡辺綱：吉田玉男、若菜：吉田簗二郎

「解説」

太 夫：豊竹睦太夫／三味線：野澤錦吾／人 形：吉田玉誉

人形部：吉田玉勢、桐竹紋吉、吉田玉翔、吉田玉路、吉田和馬、吉田玉延、
吉田和登

囃 子：望月太明藏社中

※内容・出演者に変更がある場合があります。あらかじめご了承ください

○席料

2,000円(全席自由)

○チケット予約 7月15日(土)より発売

チケットぴあ(0570-02-9999 Pコード:480262)

ローソンチケット(0570-084-003 Lコード:32414)

○問い合わせ

にっぽん文楽プロジェクト（TEL03-6233-8948、平日 10:00～17:00）

<http://www.nipponbunraku.com>

総合プロデューサー：中村雅之

アシスタントプロデューサー：榎本かおり（BOX4628）／アドバイザー：宮本芳彦（宮本卯之助商店）
／グラフィックデザイン：みやはらたかお

舞台監督：山添寿人／舞台機構・大道具：関西舞台／音響・照明：ピーエーシーウエスト／組立施工：菜の実建築工房／幔幕製作・施工：宮本卯之助商店

運営ディレクター：原昇／運営：ミュージメントワークス

建築設計・監理：田野倉建築事務所／構造設計・監理：福山弘構造デザイン

主催：日本財団

制作：一般財団法人 にっぽん文楽プロジェクト

制作協力：公益財団法人 文楽協会

協力：独立行政法人 日本芸術文化振興会、酒蔵文楽、東京藝術大学、
上野観光連盟

後援：東京都、台東区

○演目解説

まんざい　せきでらこまち　はなくらべしきのことぶき
「万才・関寺小町～花競四季寿より」　榎茂都陸平　振付

春は「万才」、夏は「海女」、秋は「関寺小町」、冬は「鷺娘」と春夏秋冬にちなんだ人物が登場して踊る。それぞれ単独で上演することもある。「万才」では、太夫・才蔵の二人組が、新年を寿ぎ、小鼓を賑やかに打ち鳴らしながら正月の町を門付して歩く。「関寺小町」では、百歳の老女となったかつての絶世の美女・小野小町が、昔の華やぎをしのびながら庵へ帰って行く。「万才」は地歌、「関寺小町」は能と関わりが深い。

ぞうほおおえやま　もどりぼしのだん
「増補大江山～戻り橋の段」

大江山の鬼退治で有名な源頼光の四人の家来は、主人にも負けない豪傑として知られ「頼光四天王」と呼ばれている。その内の一人、渡辺綱が、鬼女の片腕を切り落とした、という伝説を基とした作品。ある日の夜、綱が京・一条の戻り橋に差し掛かると、美しい女が佇んでいた。行き先を尋ねると五条まで行くと言うので、送ろうと一緒に歩き始める。フッと川面を見ると、そこには美女ではなく、恐ろしい鬼の姿が映っていた。綱は「本性を現せ」と詰め寄り、格闘が始まる。この激しい立ち回りが見どころ。一瞬にして、美女が鬼女に、また鬼女が美女に戻る。この特殊な首は「ガブ」と呼ばれる。

にっぽん文楽 in 上野の杜 実施報告

○事業概要

公演名：にっぽん文楽 in 上野の杜

公演期間：平成29年10月14日（土）から平成29年10月17日（火）

[昼の部] 開場 11:30 開演 12:30 [夜の部] 開場 17:30 開演 18:30

会場：上野恩賜公園、噴水前広場

入場料：2,000円

主催：日本財団／制作：一般財団法人 にっぽん文楽プロジェクト

制作協力：公益財団法人 文楽協会

協力：独立行政法人 日本芸術文化振興会、酒蔵文楽、上野観光連盟、東京藝術大学

後援：東京都、台東区

○実施結果の概要

上記のとおり実施。

※10月14日（土）夜の部～10月16日（月）まで雨天により中止、実施公演：全3回

公演入場者数：1056名 ※有料・招待含む／舞台見学会入場者数：3584名

雨天時に舞台見学会を無料で開催。舞台に上って見学頂けるほか、人形との写真撮影会の時間も設けた。

10月14日（土）、15日（日）15:00～15:30、にっぽん文楽の舞台前にて、東京藝術大学とのコラボレーション企画とし、音楽学部学生によるチンドン演奏（作曲・編曲：東京藝術大学副学長松下功）と、同大学教授の彫刻家、藪内佐斗司氏製作の巨大人形を操るパフォーマンスを無料で行った。

○所感

大学、博物館、文化会館などが立ち並ぶ日本文化の拠点、上野での公演。舞台は、上野恩賜公園の大噴水と東京国立博物館を背にして建てられた。公演の合間には、舞台檣の前で東京藝術大学との特別コラボレーション企画とし、音楽学部の学生による邦楽・洋楽混成の音楽隊「藝大Artチンドン」による生演奏(作曲：松下功)とともに、「せんとくん」で知られる彫刻家の藪内佐斗司が今回の演目「増補大江山 戻り橋の段」に合わせて特別製作した人形やお面で鬼退治パフォーマンスを行った。公演期間は長雨で中止となってしまった回も多かったが、代わりに無料の組立舞台見学会を開催、実際に舞台に上がって見学できるほか、文楽人形を間近に見ることができた。

添付資料 につぼん文楽 in 上野の杜 記録写真



写真上、写真中・右：上演中の様子 写真中・左：東京藝術大学コラボレーション企画の様子
写真下：舞台見学会の様子

にっぽん文楽

Nippon Bunraku
in 上野の杜

「春は桜
秋は文楽」
— 飲みながら食べながら上野



煤茂都陸平 振付

「万才・関寺小町」

花菱四季寿より

竹本千歳太夫、豊澤富助、吉田和生ほか

「増補大江山 戻り橋の段」

豊竹睦太夫、野澤錦糸、吉田玉男ほか

総合プロデューサー…中村雅之



2017年10月14日(土)～17日(火)

[昼の部] 開場11:30 開演12:30 終演予定14:00頃

[夜の部] 開場17:30 開演18:30 終演予定20:00頃

※雨天荒天の場合は中止となります。

中止のご連絡は、にっぽん文楽ホームページ(<http://www.nipponbunraku.com>)でお知らせします。

※会場は屋外のため、寒暖対策には、ご自分で十分ご注意ください。

※会場内での飲食および持ち込みは自由です。

会場：上野恩賜公園（噴水前広場）

チケット料金：2,000円（全席自由）

チケット発売：7月15日より

チケット取扱い：チケットぴあ（0570-02-9999 Pコード：480262）

ローソンチケット（0570-084-003 Lコード：32414）

お問合せ：にっぽん文楽プロジェクト（TEL03-6233-8948、平日10:00～17:00）<http://www.nipponbunraku.com>

写真：青木信二

主催：日本財団 制作：一般財団法人 にっぽん文楽プロジェクト 制作協力：公益財団法人 文楽協会

協力：独立行政法人 日本芸術文化振興会、酒蔵文楽、東京藝術大学、上野観光連盟

後援：東京都、台東区

上野で「文化の秋」を満喫する

総合プロデューサー 中村雅之 (横浜能楽堂館長 / 明治大学大学院兼任講師)

春のお花見に限らず、上野は一年中にぎわっています。芸術大学、コンサートホール、美術館・博物館、動物園と日本を代表する文化機関・施設が揃っているからです。そこに、ひと時ではありますが、「人形浄瑠璃 文楽」が加わります。「文化の秋」、美術館や動物園を巡った前後、「にっぽん文楽」を見て、一日、上野で過ごしてみませんか。

5回目の「にっぽん文楽」。今回も、竹本千歳太夫・豊澤富助・吉田和生・吉田玉男ら太夫・三味線・人形それぞれ、一線級が顔を揃えました。演目は、文楽では「景事」と呼ばれる音楽性豊かな舞踊の要素が強い小品を2つ。誰が見ても楽しめる、華やかさあり、サプライズありの演目です。

舞台は、移動自由の組立て式ですが、銘木の産地・吉野から切り出された檜をふんだんに使った本格的なもの。さらに金の飾り金具が、豪華さを演出しています。木綿のまん幕には、伝統的な染めの技術で「にっぽん文楽」の紋が染め抜かれています。

屋外の開放的な空間で、飲みながら、食べながら、ゆったりと文楽を楽しむ一というのがコンセプトの「にっぽん文楽」に、今回から新たな楽しみが加わりました。埼玉・上尾で、百数十年にわたり酒造りを続ける「酒蔵 文楽」が限定醸造した「にっぽん文楽」が販売されます。もちろん自分のお気に入りのお酒やおつまみを持ち込むのも自由です。

初日・2日目の昼と夜の公演の間には、会場周辺で、東京藝術大学との特別コラボレーション企画もあり、「にっぽん文楽」を盛り上げます。音楽学部学生の邦楽・洋楽混成の音楽隊「藝大Artチンドン」が、作曲家である松下功副学長が作曲した曲を演奏しながら練り歩き、それに合わせて「せんとくん」で知られる彫刻家の籾内佐斗司美術学部教授が製作した巨大人形がパフォーマンスを繰り広げます。併せてお楽しみください。

(特別コラボレーション企画は、変更される場合もございます。ホームページでご確認の上、ご来場ください)

演目・出演

まんざい せきでらこまち
「**万才・関寺小町**」はなくらべしきのことぶき ~花鏡四季寿より 榎茂都陸平 振付

太 夫 / 竹本千歳太夫、豊竹始太夫、竹本碩太夫

三味線 / 豊澤富助、野澤喜一郎、野澤錦吾

人 形 / 太夫: 吉田文昇、才蔵: 吉田玉佳、関寺小町: 吉田和生

ぞうほ おおえやま
「**増補大江山**」もどりぼしのだん 戻り橋の段

太 夫 / 若菜: 豊竹睦太夫、渡辺綱: 豊竹靖太夫、

ツレ: 竹本碩太夫

三味線 / 野澤錦糸、野澤喜一郎、八雲: 鶴澤清丈、八雲: 野澤錦吾

人 形 / 渡辺綱: 吉田玉男、若菜: 吉田篁二郎

演目解説

「万才・関寺小町 花鏡四季寿より」

春は「万才」、夏は「海女」、秋は「関寺小町」、冬は「驚娘」と春夏秋冬にちなんだ人物が登場して踊る。それぞれ単独で上演することもある。「万才」では、太夫・才蔵の二人組が、新年を寿ぎ、小鼓を賑やかに打ち鳴らしながら正月の町を門付して歩く。「関寺小町」では、百歳の老女となったかつての絶世の美女・小野小町が、昔の華やぎをしのびながら庵へ帰って行く。「万才」は地歌、「関寺小町」は能と関わりが深い。

「増補大江山 戻り橋の段」

大江山の鬼退治で有名な源頼光の四人の家来は、主人にも負けない豪傑として知られ「頼光四天王」と呼ばれている。その内の一人、渡辺綱が、鬼女の片腕を切り落とした、という伝説を基とした作品。ある日の夜、綱が京・一条の戻り橋に差し掛かると、美しい女が佇んでいた。行き先を尋ねると五条まで行くと言うので、送ろうと一緒に歩き始める。フツと川面を見ると、そこには美女ではなく、恐ろしい鬼の姿が映っていた。綱は「本性を現せ」と詰め寄り、格闘が始まる。この激しい立ち回りが見どころ。一瞬にして、美女が鬼女に、また鬼女が美女に戻る。この特殊な首は「ガブ」と呼ばれる。

酒蔵 文楽

明治時代、青雲の志に燃えた亀吉という青年が仲間とともに、滋賀から埼玉・上尾に移り住み、酒蔵を立ち上げました。文楽をこよなく愛した亀吉は、「太夫・三味線・人形遣い」のように、「米・麴・水」が三位一体となった素晴らしい日本酒を造りたい、という思いを込め、銘柄に「文楽」と名付けました。



「解説」

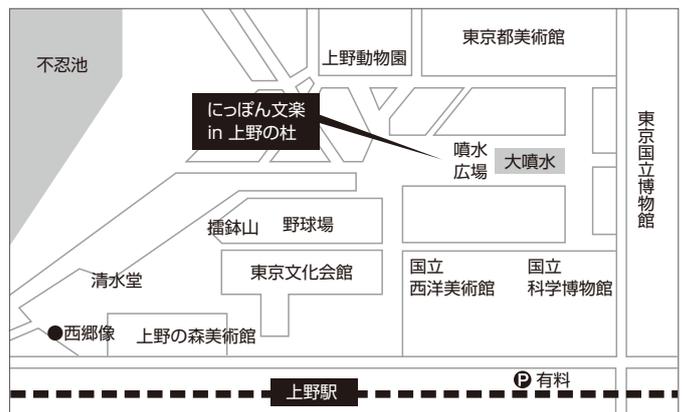
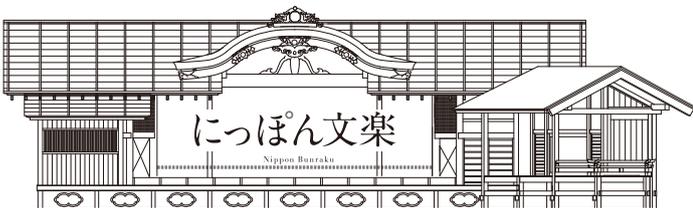
太 夫: 豊竹睦太夫 / 三味線: 野澤錦吾 / 人 形: 吉田玉誉

人形部: 吉田玉勢、桐竹紋吉、吉田玉翔、吉田玉路、吉田和馬、
吉田玉延、吉田和登

囃 子: 望月太明蔵社中

※内容・出演者に変更がある場合があります。あらかじめご了承ください

総合プロデューサー: 中村雅之
アシスタントプロデューサー: 榎本かおり (BOX4628) / アドバイザー: 宮本芳彦 (宮本卯之助商店)
グラフィックデザイン: みやはらたかお
舞台監督: 山添寿人 / 舞台機構・大道具: 関西舞台 / 音響・照明: ピーエーシーウエスト
組立施工: 葉の実建築工房 / 幔幕製作・施工: 宮本卯之助商店
運営ディレクター: 原昇 / 運営: ミュージメントワークス
建築設計・監理: 田野倉建築事務所 / 構造設計・監理: 福山弘構造デザイン



～震災復興支援～
にっぽん文楽 in 熊本城

元気のタネを蒔こう！

飲みながら、食べながら文楽

熊本城に清正

「日本のタカラ」である文楽を気軽に楽しんでもらおうと、「2020年東京オリンピック・パラリンピック」まで、桧造りの本格的な組み立て舞台を使って、全国を回る「につぼん文楽」。今回は震災復興支援を掲げ、熊本城二の丸広場を会場に、「につぼん文楽 in 熊本城」として、3月17日から20日まで開催。熊本城を築城した加藤清正の人形が登場する演目を上演する。

「につぼん文楽プロジェクト」は、日本を代表する古典芸能である「文楽」の価値を広く知ってもらうことを目指し日本財団が立ち上げたプロジェクトで、2015年の東京・六本木ヒルズでの公演を皮切りに、これまで大阪・難波宮、東京・浅草寺、三重・伊勢神宮外宮、東京・上野恩賜公園と全国を巡って来た。

出演者は、竹本津駒太夫、鶴澤清介、吉田勘彌、4月に五代目吉田玉助を襲名する吉田幸助ら一線で活躍する顔ぶれ。演目は、加藤清正の忠義を描いた「八陣守護城 浪花入江の段」と、賑やかな景事の「面売り」を上演する。

また、震災復興支援として熊本県内にお住まいの方へ、抽選で公演無料ご招待を行う。(2月末日締切済み)

「につぼん文楽」は、「飲みながら 食べながら 文楽」のキャッチフレーズを掲げ、飲食自由の公演スタイルが特徴。前回公演に引き続き、埼玉・上尾で、百数十年にわたり丁寧な酒造りを続ける北西酒造の日本酒「文楽」より、「につぼん文楽限定ラベルのボトル」などが販売される。会場付近では、「春のくまもとお城まつり」も開かれ、県内の食を集めたブースも設けられる。熊本の美味をつまみに「文楽」を飲みながら、文楽を見るのはオツなもの。

「組み立て舞台」は、銘木の産地・吉野から切り出された桧材をふんだんに使って作られた幅約19.7m、高さ6.7mにもおよぶ本格的なもの。木綿の生地を藍を使って「につぼん文楽」の紋を染めた幔幕が、客席全体を囲む。そこに客席として縁台が置かれる。定員は300席ほどで、通常の文楽公演と比べ間近に舞台を楽しむことができる。

公演に先立ち、前日の16日には、熊本市内、下通りアーケードにて「お練り」を行う。出演者が文楽人形と練り歩くほか、同時期に熊本城で開催の「春のくまもとお城まつり」からも出演者らが参加し共に盛り上げる。

公 演 概 要

○公演タイトル

～震災復興支援～につぼん文楽 in 熊本城

○日時

2018年3月17日(土)～20日(火)

[昼の部] 開場 12:00 開演 13:00

[夜の部(17日・18日)] 開場 16:00 開演 17:00

[夜の部(19日・20日)] 開場 17:00 開演 18:00

○会場

熊本城 二の丸広場

○演目

「八陣守護城 浪花入江の段」(はちじんしゅごのほんじょう なにわいりえのだん)

太 夫／正清：竹本津駒太夫、雛絹：豊竹希太夫、鞠川・早淵：竹本津國太夫

三味線／鶴澤清介、琴：鶴澤清公

人 形／早淵久馬：桐竹勘次郎、加藤肥多守正清：吉田幸助、

娘雛絹：吉田一輔、鞠川玄蕃：桐竹勘次郎、

船頭：大ぜい、近習：大ぜい、忍び：大ぜい

「面売り」(めんうり) 野澤松之輔＝作詞・作曲 藤間勘寿朗＝振付

太 夫／面売り：豊竹呂勢太夫、案山子：豊竹芳穂太夫、ツレ：豊竹希太夫

三味線／鶴澤藤蔵、鶴澤寛太郎、鶴澤清公、鶴澤清允

人 形／おしゃべり案山子：吉田簀一郎、面売り娘：吉田勘彌

「解説」

太夫：豊竹芳穂太夫／三味線：鶴澤寛太郎／人形：桐竹紋臣

人形部：吉田玉勢、吉田簀之、吉田簀悠、吉田玉征

囃 子：望月太明蔵社中

※内容・出演者に変更がある場合があります。あらかじめご了承ください。

○チケット料金：2,000円(全席自由) 発売：2月1日より

○チケット取扱い：

チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード：483310)

ローソンチケット 0570-084-008 (Lコード：81318)

震災復興支援、熊本県にお住まいの方向け抽選無料ご招待申込方法
 (2月28日(水)必着)【締切済】

郵便はがきに以下をご記入の上、にっぽん文楽プロジェクトへお申込みください。

- (1)お名前 (2)ご住所
 - (3)お電話番号
 - (4)ご希望枚数※2枚まで
 - (5)第1希望の公演
 - (6)第2希望の公演
- ※右の表から記号をお選びください

ご応募先：〒169-0075 東京都新宿区高田馬場
 1-31-8
 高田馬場ダイカンプラザ 420
 にっぽん文楽プロジェクト
 熊本公演申込係

	13:00 開演	17:00 開演	18:00 開演
17日 (土)	A-1	A-2	
18日 (日)	B-1	B-2	
19日 (月)	C-1		C-2
20日 (火)	D-1		D-2

※応募多数の場合は抽選となります。
 ※当選発表は、招待チケットの送付にてかえさせていただきます。(3/9頃)

○問い合わせ

にっぽん文楽プロジェクト (TEL 03-6233-8948、平日 10:00~17:00)
<http://www.nipponbunraku.com>

総合プロデューサー：中村雅之

アシスタントプロデューサー：榎本かおり (BOX4628) / アドバイザー：宮本芳彦 (宮本卯之助商店)
 / グラフィックデザイン：みやはらたかお

舞台監督：山添寿人 / 舞台機構・大道具：関西舞台 / 音響・照明：ピーエーシーウエスト / 運営ディレクター：原昇 / 運営：ミュージメントワークス /
 建築設計・監理：田野倉建築事務所 / 構造設計・監理：福山弘構造デザイン /
 組立施工：菜の実建築工房 / 幔幕製作・施工：宮本卯之助商店

主催：日本財団、一般財団法人にっぽん文楽プロジェクト、熊本市 (お城まつり運営委員会)
 制作：一般財団法人にっぽん文楽プロジェクト
 制作協力 / 公益財団法人 文楽協会
 特別協力 / 熊本県 協力 / 独立行政法人 日本芸術文化振興会、北西酒造

○演目解説

「八陣守護城 浪花入江の段」(はちじんしゅごのほんじょう なにわいりえのだん)

加藤清正が、秀吉死後も豊臣家に忠義を尽くし、徳川方に毒殺されたという俗説に基づいて作られた。幼君の身代わりに毒を飲みほした清正。毒が回ったことを徳川方に悟られぬよう居城へ戻り、死期を悟りながらも、主家の安泰を祈る清正の姿を描く。江戸時代に作られた作品であるため、幕府を憚り、それぞれの役名は他に置き換えられている。

先君の死で、幼君・春若(豊臣秀頼)が残され、力を増していた北条時政(徳川家康)は、権力を我がものにしようと春若毒殺の謀略を企てる。その動きに気付いた先君からの忠臣・加藤正清(加藤清正)は、春若の代わりに毒を受けながらも、決然と居城がある国元へと旅立つ。

〈今回上演される「浪花入江の段」は、この後から始まる〉。

舞台は正清の御座船の上。正清の息子・主計之介の許嫁である雛絹を居城へ連れ帰るため、共に船に乗っている。

正清の様子を探りに時政の家臣・早淵久馬が船を訪れる。しかし、毒を飲んでいる筈の正清が元気なことに驚いて帰る。代わって、時政の使者・鞠川玄蕃が現れ、餞別として「鎧櫃」を置いていく。玄蕃が去った後、「鎧櫃」の中から鉄砲を持った忍びの者が飛び出し、正清を襲う。毒が回って来た正清だったが、見事に忍びの者を切り捨てる。正清は、何事も無かったかのように、船子たちの「清めの舟歌」を聞きながら船出して行く。

「面売り」(めんうり)

江戸時代、様々な芸人や物売りが行き来し、街中は賑やかだった。その情景を彷彿とさせる小品。文楽では「景事」と呼ばれる舞踊物の一つだ。

面白可笑しく言葉を並べ立てる「おしゃべり案山子」と言う大道芸人の男と「面売り」の娘が登場する。面売りは、おしゃべり案山子から一緒に商売をしようと持ちかけられ、話に乗る。「ひょっとこ」「おかめ」……、おしゃべり案山子は、次々と面を取り出し、口上の述べながら売る稽古を始める。やがて二人は、息の合った掛けあいを始め踊り出すのだった。

～震災復興支援～につぼん文楽 in 熊本城 実施報告

○事業概要

公演名：～震災復興支援～につぼん文楽 in 熊本城

公演期間：平成30年3月17日（土）から平成30年3月20日（火）

昼の部 12：00 開場 13：00 開演／

夜の部(17日・18日) 16：00 開場 17：00 開演

夜の部(19日・20日) 17：00 開場 18：00 開演

会場：熊本城二の丸広場

入場料：2,000円

仮設住宅・みなし仮設住宅にお住まいの方へは無料招待の募集を行った

主催：日本財団、につぼん文楽プロジェクト、熊本市(お城まつり運営委員会)

制作：につぼん文楽プロジェクト／制作協力：公益財団法人文楽協会

特別協力：熊本県／協力：独立行政法人日本芸術文化振興会、北西酒造

○実施結果の概要

上記のとおり実施。

※19日（月）昼の部・夜の部、20日（火）夜の部が雨天により中止のため、実施公演は全5回。雨天時に舞台見学会を無料で開催。舞台上って見学頂けるほか、人形遣いによる文楽解説や、人形との写真撮影会の時間も設けた。

入場者数：1001名 ※有料・招待含む／舞台見学会入場者数：221名

○所感

熊本城二の丸広場で公演。今、まさに復興途中の熊本城を背景に舞台を建て、震災復興支援として、仮設住宅・みなし仮設住宅にお住まいの方を優先無料招待した。演目も、熊本に縁のある加藤清正公をモデルにした「八陣守護城」を上演。愉快的な舞踊劇の「面売り」では「くまモン」のお面が登場するなど、熊本ならではの演出もあった。初日前日には熊本市のアーケードで「お練り」が行われ、熊本城おもてなし武将隊や熊本市イメージキャラクターの「ひごまる」、地元消防団の木遣りや郷土芸能の花童らと共に関係者が賑やかに練り歩いた。

にっぽん文楽 in 熊本城 記録写真



写真上：公演の様子 写真中：熊本市下通り商店街お練りの様子

写真下・左：公演の様子（人形との記念撮影会） 写真下・右：公演の様子(八陣守護城)

～震災復興支援～

にっぽん文楽

Nippon Bunraku
in 熊本城

飲みながら 食べながら 文楽
本格的な組立舞台と清正公が熊本城に登場



「八陣守護城」 浪花入江の段

竹本津駒太夫、鶴澤清介、吉田幸助 ほか

野澤松之輔 作詞・作曲 藤間勘寿朗 振付

「面売り」

豊竹呂勢太夫、鶴澤藤蔵、吉田勘彌 ほか

総合プロデューサー…中村雅之



2018年3月17日(土)～20日(火)

[昼の部] 開場12:00 開演13:00

[夜の部 (17日・18日)] 開場16:00 開演17:00

[夜の部 (19日・20日)] 開場17:00 開演18:00

※荒天時は中止となります。中止のご案内は、にっぽん文楽ホームページ (<http://www.nipponbunraku.com/>) でお知らせします。

小雨決行ですが、傘は使用できませんので、防寒具、レインコート等を各自でご準備ください。

※公演中止時は、舞台見学会および人形との記念撮影会を無料にて開催いたします。(各開場時間より90分間)

※二の丸駐車場 午前8時～午後8時半(最終入庫午後7時半) 台数に限りがありますので可能な限り、公共交通機関をご利用ください。

※会場は屋外のため、寒暖対策には十分ご注意ください。 ※会場内での飲食および持ち込みは自由です。

会場：熊本城 二の丸広場

チケット料金：2,000円(全席自由) チケット発売：2月1日より

チケット取扱：チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード：483310)

ローソンチケット 0570-084-008 (Lコード：81318)

お問合せ：にっぽん文楽プロジェクト (TEL03-6233-8948、平日10:00～17:00 <http://www.nipponbunraku.com>)

写真：青木信二

主催：日本財団、一般財団法人にっぽん文楽プロジェクト、熊本市(お城まつり運営委員会)

制作：一般財団法人にっぽん文楽プロジェクト 制作協力：公益財団法人 文楽協会

特別協力：熊本県 協力：独立行政法人 日本芸術文化振興会、北西酒造

あの震災から2018年4月で丸2年。それを前に、震災復興支援を掲げ、熊本城を背景に「にっぽん文楽」を開催します。2015年から始まった「にっぽん文楽」は、国内・外の多くの人たちに、「日本のタカラ」である「文楽」の価値を知ってもらおう、と立ち上げられたプロジェクトですが、もう一つの目的は、移動自由の組立て式舞台を日本全国に持って行き、日本中に元気のタネを蒔いて回ろうというもの。今回は、東京・上野に続く6回目の開催となります。

舞台は、銘木の産地・吉野から切り出された檜をふんだんに使った本格的な「建物」です。さらに金の飾り金具が、豪華さを演出しています。木綿のまん幕には、伝統的な染めの技術で「にっぽん文楽」の紋が染め抜かれています。

出演者は、「太夫」の竹本津駒太夫、「三味線」の鶴澤清介、「人形」の吉田勘彌、4月に五代吉田玉助を襲名する吉田幸助ら一線で活躍する顔ぶれ。

演目は、熊本ということで特別に加藤清正の忠義を描いた「八陣守護城」を選びました。めったに上演されることのない作品です。愉快な舞踊物「面売り」も合わせて上演します。

「にっぽん文楽」のコンセプトは、この本格的な文楽公演を飲みながら食べながら、ゆっくりと楽しんでもらう、というもの。ほかの文楽公演ではあり得ない、掟破りのプロジェクトです。会場内では、埼玉・上尾で、百数十年にわたり酒造りを続ける「北西酒造」より、限定ラベルの日本酒「にっぽん文楽」を販売します。

震災復興は、道半ばですが、ひと時、手を休めて文楽を楽しんでいただければ幸いです。一日も早い完全復興を願ってやみません。

演目・出演

はちじん しゅごのほんじょう 「八陣守護城」 なにわいりえのだん 浪花入江の段

太 夫 / 正清: 竹本津駒太夫、雛絹: 豊竹希太夫、鞠川・早淵: 竹本津國太夫
三味線 / 鶴澤清介、琴: 鶴澤清公
人 形 / 早淵久馬: 桐竹勘次郎、加藤肥多守正清: 吉田幸助、
娘雛絹: 吉田一輔、鞠川玄蕃: 桐竹勘次郎
船頭: 大ぜい、近習: 大ぜい、忍び: 大ぜい

めんうり 「面売り」 野澤松之輔=作詞・作曲 藤間勘寿朗=振付

太 夫 / 面売り: 豊竹呂勢太夫、案山子: 豊竹芳穂太夫、ツレ: 豊竹希太夫
三味線 / 鶴澤藤蔵、鶴澤寛太郎、鶴澤清公、鶴澤清允
人 形 / おしゃべり案山子: 吉田簀一郎、面売り娘: 吉田勘彌

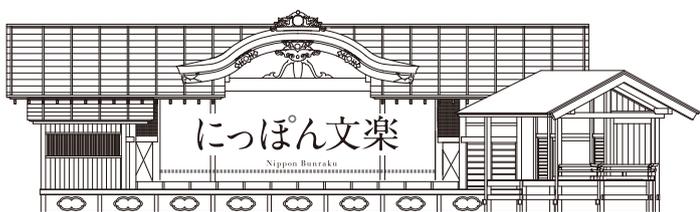
「解説」

太 夫: 豊竹芳穂太夫 / 三味線: 鶴澤寛太郎 / 人 形: 桐竹紋臣

人形部: 吉田玉勢、吉田簀之、吉田簀悠、吉田玉征
囃 子: 望月大明蔵社中

※内容・出演者に変更がある場合があります。あらかじめご了承ください

総合プロデューサー: 中村雅之
アシスタントプロデューサー: 榎本かおり (BOX4628) / アドバイザー: 宮本芳彦 (宮本卯之助商店)
グラフィックデザイン: みやはらたかお
舞台監督: 山添寿人 / 舞台機構・大道具: 関西舞台 / 音響・照明: ビーエーシーウエスト
運営ディレクター: 原昇 / 運営: ミューズメントワークス
建築設計・監理: 田野倉建築事務所 / 構造設計・監理: 福山弘構造デザイン
組立施工: 菜の実建築工房 / 幔幕製作・施工: 宮本卯之助商店



演目解説

「八陣守護城 浪花入江の段」

加藤清正が、秀吉死後も豊臣家に忠義を尽くし、徳川方に毒殺されたという俗説に基づいて作られた。幼君の身代わりに毒を飲みほした清正。毒が回ったことを徳川方に悟られぬよう居城へ戻り、死期を悟りながらも、王家の安泰を祈る清正の姿を描く。江戸時代に作られた作品であるため、幕府を憚り、それぞれの役名は他に置き換えられている。

先君の死で、幼君・春若 (豊臣秀頼) が残され、力を増していた北条時政 (徳川家康) は、権力を我がものにしようとする春若毒殺の謀略を企てる。その動きに気付いた先君からの忠臣・加藤正清 (加藤清正) は、春若の代わりに毒を受けながらも、決然と居城がある国元へと旅立つ。

〈今回上演される「浪花入江の段」は、この後から始まる〉。

舞台は清正の御座船の上。清正の息子・主計之介の許嫁である雛絹を居城へ連れ帰るため、共に船に乗っている。

清正の様子を探りに時政の家臣・早淵久馬が船を訪れる。しかし、毒を飲んでる筈の清正が元気なことに驚いて帰る。代わって、時政の使者・鞠川玄蕃が現れ、餞別として「鎧櫃」を置いていく。玄蕃が去った後、「鎧櫃」の中から鉄砲を持った忍びの者が飛び出し、清正を襲う。毒が回って来た清正だったが、見事に忍びの者を切り捨てる。清正は、何事も無かったかのように、船子たちの「清めの舟歌」を聞きながら船出していく。

「面売り」

江戸時代、様々な芸人や物売りが行き来し、街中は賑やかだった。その情景を彷彿とさせる小品。文楽では「景事」と呼ばれる舞踊物の一つだ。

面白可笑しく言葉を並べ立てる「おしゃべり案山子」と言う大道芸人の男と「面売り」の娘が登場する。面売りは、おしゃべり案山子と一緒に商売をしようと持ちかけられ、話に乗る。「ひょっとこ」「おかめ」……、おしゃべり案山子は、次々と面を取り出し、口上を述べながら売る稽古を始める。やがて二人は、息の合った掛け合いを始め踊り出すのだった。



～明治神宮奉納公演～
にっぽん文楽 in 明治神宮

鎮座100年を控え奉納公演 明治神宮の鳥居前に舞台 竹下通りで、お練りも

国内・外の多くの人たちに、「日本のタカラ」である「文楽」の価値を知ってもらおう、と全国各地を回っている「にっぽん文楽」の公演が、3月9日から12日まで、「にっぽん文楽 in 明治神宮」として、明治神宮の原宿口・鳥居前で開催される。来年、明治神宮は鎮座100年を迎える。これを前に、特別に奉納公演として開催する事が認められた。「伝統の杜・明治神宮」から、JR山の手線の線路を挟んで向う側は、「先端の街・原宿」。神宮の鳥居は、「伝統と先端」の結界とも言える。この地から文楽に新たな息吹を吹き込む。

公演に先立ち8日には、流行の発信基地として日本全国に止まらず、最近では海外からも大勢の若者が押し掛ける原宿・竹下通りで、史上初めて、伝統芸能のお練りが行われるのも大きな話題だ。

吉野の檜をふんだんに使った本格的な組立て式舞台で、2015年の東京・六本木ヒルズに始まり、全国各地を回って開催して来た「にっぽん文楽」。昨年、震災復興支援として開催した熊本城に続き7回目の開催となる。

多くの人に、より気軽に楽しんでいただけるよう、会場はオープンにし、後方から無料で立ち見することも可能にした。もちろん、ゆっくり座って見たいという要望にも応え、有料席もある。さらに1回当たりの公演時間も短くする代わりに、1日3回と公演数を増やした。

演者は「太夫」の豊竹呂太夫、「三味線」の鶴澤清介、「人形」の桐竹勘十郎ら、今回も豪華な顔ぶれが揃った。演目は、道成寺物の名作「日高川入相花王 渡し場の段」と三条小鍛冶宗近が稲荷明神と共に名剣を打ち上げる「小鍛冶」。いずれも、初めて文楽を見る人でも楽しめる演目だ。公演前には、技芸員による文楽解説もある。

公 演 概 要

○公演タイトル

～明治神宮奉納公演～につぼん文楽 in 明治神宮

○日時

2019年3月9日(土)～12日(火)

[1回目] 開場 12:00 開演 13:00

[2回目] 開場 15:00 開演 16:00

[3回目] 開場 18:00 開演 19:00 ※3/11(月)3回目公演は貸切

○会場

明治神宮 原宿口 鳥居前

○客席数

約120席 ※後方に無料の立見エリアを設置

○演目・出演

Aプログラム 「日高川入相花王 渡し場の段」

太 夫／清姫：豊竹呂勢太夫、船頭：豊竹睦太夫、ツレ：豊竹咲寿太夫

三味線／鶴澤藤蔵、鶴澤友之助、鶴澤清公、鶴澤清允

人 形／清姫：吉田勘彌、船頭：吉田簗紫郎

Bプログラム 「小鍛冶」

太 夫／稻荷明神：豊竹呂太夫、宗近：豊竹希太夫、道成：豊竹亘太夫

三味線／鶴澤清介、鶴澤清丈、鶴澤清公、鶴澤清允

人 形／三条小鍛冶宗近：吉田玉助、老翁実は稻荷明神：桐竹勘十郎、
勅使橘道成：吉田勘市

「解説」

太 夫：豊竹咲寿太夫／三味線：鶴澤清公／人 形：吉田玉翔

人形部：吉田簗一郎、吉田文哉、吉田簗太郎、桐竹勘次郎、桐竹勘介、
吉田簗之、吉田玉征、桐竹勘昇

囃 子：望月太明藏社中

○演目スケジュール

	13：00 開演	16：00 開演	19：00 開演
9日(土)	A)日高川	B)小鍛冶	A)日高川
10日(日)	B)小鍛冶	A)日高川	B)小鍛冶
11日(月)	A)日高川	B)小鍛冶	貸切公演
12日(火)	B)小鍛冶	A)日高川	B)小鍛冶

チケット料金：1,000円（全席自由）チケット発売中

チケット取扱：チケットぴあ 0570-02-9999（Pコード：490806）

○お問合せ

につぼん文楽プロジェクト（TEL 03-6233-8948、平日 10:00～17:00）

につぼん文楽ホームページ（<http://www.nipponbunraku.com/>）

※小雨決行、荒天時は中止

※会場内での飲食および持ち込み自由（会場内で日本酒を販売）

総合プロデューサー：中村雅之

アシスタントプロデューサー：榎本かおり（BOX4628）／アドバイザー：宮本芳彦（宮本卯之助商店）

グラフィックデザイン：みやはらたかお

舞台監督：山添寿人／舞台機構・大道具：関西舞台／音響・照明：ピーエーシーウエスト／運営ディレクター：原昇／運営：ミュージメントワークス

建築設計・監理：田野倉建築事務所／構造設計・監理：福山弘構造デザイン

組立施工：菜の実建築工房／幔幕製作・施工：宮本卯之助商店

主催：日本財団、一般財団法人 につぼん文楽プロジェクト

制作：一般財団法人 につぼん文楽プロジェクト

制作協力：公益財団法人 文楽協会

特別協力：明治神宮

協力：独立行政法人 日本芸術文化振興会、北西酒造、渋谷区神宮前地区町会連合会

後援：東京都、渋谷区

※本公演は「渋谷区×日本財団 ソーシャルイノベーションに関する包括連携協定」に基づく活動の一環です。

○演目解説

ひ だかがわいりあいざくら わたしば だん
「日高川入相花王 渡し場の段」

能を源流として、歌舞伎でも様々な形で作品化されている「道成寺物」の一つ。宝暦9年(1759)、大坂・竹本座の初演。広く知られている安珍清姫伝説に皇位継承争いを加え、他の「道成寺物」とは一味違うスケールの大きい物語に仕立てている。全五段だが、現在演じられているのは四段目の前半「真那古庄司館の段」と後半「渡し場の段」のみ。特に「渡し場の段」のみを演じる場合が多い。桜木親王は、皇位継承争いから山伏・安珍に身をやつし都から逃れる。途中、一夜の宿を借りた紀州・真那古庄司の一人娘・清姫は、かつて都で見初めた桜木親王に恋心を燃やす。しかし桜木親王には、恋仲のおだ巻姫がいた。庄司の館で落ち合った二人は、道成寺へと向かう。それを知った清姫は、嫉妬に狂い後を追う。

〈今回上演される「渡し場の段」は、この後から始まる〉

清姫が、道成寺を目前とした日高川の岸まで来ると、追って来るのを予測していた桜木親王に言い含められていた渡し守が乗せるのを拒む。嫉妬の塊となった清姫は、日高川に飛び込み、蛇に姿を変え激流を渡り切ったところで終わる。清姫の娘の首は、蛇に変身すると、一瞬にして「ガブ」と呼ばれる恐ろしい形相となる。

こ か じ
「小鍛冶」

能「小鍛冶」を基として作られた「景事物」。「景事物」とは、文楽で音楽性豊かな舞踊の要素が強い小品のこと。

ある日、帝は不思議な夢を見る。その夢に従い、三条小鍛冶宗近に対し御剣を打つよう勅命を下す。宗近には腕の良い相鎚がないが、勅命なので受けない訳にはいかない。必死の思いで稻荷明神へ祈りを捧げていると、老翁が現れる。翁の言う通りに刀を打つ壇を整え待っていると、稻荷明神が狐の姿で現れる。狐は宗近の相鎚を勤め、見事な剣が打ち上がる。

にっぽん文楽 in 明治神宮 実施報告

○事業概要

公演名：にっぽん文楽 in 明治神宮

公演期間：2019年3月9日（土）～12日（火）

[1回目] 開場 12:00 開演 13:00

[2回目] 開場 15:00 開演 16:00

[3回目] 開場 18:00 開演 19:00 3/11(月)3回目公演は貸切公演

会場：明治神宮 原宿口 鳥居前

入場料：1,000円

主催：日本財団、にっぽん文楽プロジェクト

制作：にっぽん文楽プロジェクト／制作協力：公益財団法人文楽協会

特別協力：明治神宮

協力：独立行政法人日本芸術文化振興会、北西酒造、渋谷区神宮前地区町会連合会、
原宿竹下通り商店会

後援：東京都、渋谷区

○実施結果の概要

上記のとおり実施。

入場者数：1267名 ※有料・招待含む／無料立ち見エリア：のべ2335名

○所感

伝統の社と、流行の先端を行く街・原宿が交わる明治神宮の入口、一之鳥居前での公演。舞台は、明治神宮の鎮守の森を背に、原宿の街並みに向うように建てられた。客席後方の幔幕を取り払って気軽に立見でき、今回のにっぽん文楽公演のみ特別に、写真・動画撮影を可能にした。公演前日には、文楽史上初、原宿・竹下通りにてお練りを開催。若者や、海外を含む多くの旅行者が立ち止まってお練りや公演に見入り、SNS等でも広く発信された。

にっぽん文楽 in 明治神宮 記録写真



・公演の様子 演目写真(日高川)・(小鍛冶) 原宿・竹下通りお練りの様子 客席の様子

にっぽん文楽

Nippon Bunraku
in 明治神宮

ちょっと立見で。
座って飲みながら。

日高川

Aプログラム 「日高川入相花王」
豊竹呂勢太夫、鶴澤藤蔵、吉田勘彌
ほか
渡し場の段

Bプログラム 「小鍛冶」
豊竹呂太夫、鶴澤清介、桐竹勘十郎
ほか

総合プロデューサー…中村雅之

2019年3月9日(土)～12日(火)

[1回目] 開場12:00 開演13:00
[2回目] 開場15:00 開演16:00
[3回目] 開場18:00 開演19:00 ※3/11(月)3回目公演は貸切

演目スケジュール

	13:00開演	16:00開演	19:00開演
9日(土)	A)日高川	B)小鍛冶	A)日高川
10日(日)	B)小鍛冶	A)日高川	B)小鍛冶
11日(月)	A)日高川	B)小鍛冶	貸切公演
12日(火)	B)小鍛冶	A)日高川	B)小鍛冶

※荒天時は中止となります。中止のご案内は、にっぽん文楽ホームページ (<http://www.nipponbunraku.com/>) でお知らせします。

小雨決行ですが、傘は使用できませんので、防寒具、レインコート等を各自でご準備ください。
※公演中止時は、舞台見学会および人形との記念撮影会を無料にて開催いたします。(各開場時間より40分間)
※会場は屋外のため、寒暖対策には十分ご注意ください。※会場内での飲食および持ち込みは自由です。
※公演は、休憩無し約1時間を予定しております。会場にお手洗いはございませんのでご注意ください。

会場：明治神宮 原宿口 鳥居前

チケット料金：1,000円(全席自由) チケット発売：1月8日より

チケット取扱：チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード：490806)

お問合せ：にっぽん文楽プロジェクト (TEL03-6233-8948、平日10:00～17:00)

写真協力：国立文楽劇場【小鍛冶・老翁】 写真：キッチンミノル【日高川入相花王・清姫】

主催：日本財団、一般財団法人にっぽん文楽プロジェクト

制作：一般財団法人にっぽん文楽プロジェクト 制作協力：公益財団法人 文楽協会

特別協力：明治神宮 協力：独立行政法人 日本芸術文化振興会、北西酒造、渋谷区神宮前地区町会連合会 後援：東京都、渋谷区102

「伝統と先端」の結界から新たな息吹

総合プロデューサー 中村雅之 (横浜能楽堂館長 / 明治大学大学院兼任講師)

明治神宮は、2度目の東京オリンピックの年、2020年に、ちょうど鎮座100年を迎えます。これを前に「にっぽん文楽」を、明治神宮で開催します。

2015年から始まった「にっぽん文楽」は、国内・外の多くの人たちに、「日本のタカラ」である「文楽」の価値を知ってもらおう、と立ち上げられたプロジェクト。吉野の檜をふんだんに使った本格的な組立て式舞台を持って回り、全国各地で開催して来ました。今回は、震災復興支援の熊本城に続き7回目の開催となります。

多くの人に、より気軽に楽しんでいただけるよう、会場はオープンにし、後方から無料で立ち見することも可能にしました。もちろん、ゆっくり座って見たいという要望にも応え、有料席もあります。さらに1回当たりの公演時間も短くする代わりに、1日3回と公演数を増やしました。

演者は「太夫」の豊竹呂太夫、「三味線」の鶴澤清介、「人形」の桐竹勘十郎ら豪華な顔ぶれが揃いました。演目は、道成寺物の名作「日高川入相花王 渡し場の段」と、三条小鍛冶宗近が稲荷明神と共に名剣を打ち上げる「小鍛冶」。いずれも、初めて文楽を見る人でも楽しめる演目です。

「にっぽん文楽」のコンセプトは、飲みながら食べながら、ゆっくりと文楽を楽しんでもらおう、というもの。今回も、このコンセプトは変わりません。場内では、埼玉・上尾で、100年以上にわたり酒造りを続ける北西酒造より日本酒「文楽」を飲むことが出来ます。

「伝統の杜・明治神宮」から、JR山の手線の線路を挟んで向う側は、「先端の街・原宿」。神宮の大鳥居は、「伝統と先端」の結界とも言えるでしょう。この地から文楽に新たな息吹を吹き込みます。

演目・出演

Aプログラム

ひだかがわ いりあい ざくら 「日高川入相花王 渡し場の段」

太 夫 / 清姫: 豊竹呂勢太夫、船頭: 豊竹陸太夫、ツレ: 豊竹咲寿太夫
三味線 / 鶴澤藤蔵、鶴澤友之助、鶴澤清公、鶴澤清允
人 形 / 清姫: 吉田勘彌、船頭: 吉田箕紫郎

Bプログラム

こ か じ 「小鍛冶」

太 夫 / 稲荷明神: 豊竹呂太夫、宗近: 豊竹希太夫、道成: 豊竹巨太夫
三味線 / 鶴澤清介、鶴澤清丈、鶴澤清公、鶴澤清允
人 形 / 三条小鍛冶宗近: 吉田玉助、老翁実: 稲荷明神、桐竹勘十郎、
勅使橘道成: 吉田勘市

「解説」

太 夫: 豊竹咲寿太夫 / 三味線: 鶴澤清公 / 人 形: 吉田玉翔

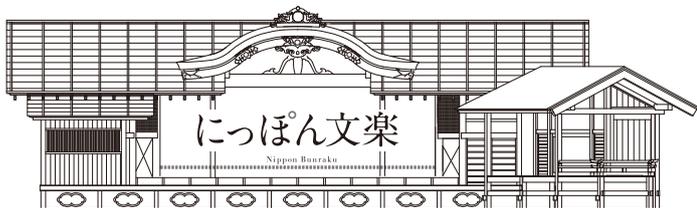
人形部: 吉田箕一郎、吉田文哉、吉田箕太郎、桐竹勘次郎、桐竹勘介、
吉田箕之、吉田玉征、桐竹勘昇
囃 子: 望月大明蔵社中

※内容・出演者に変更がある場合があります。あらかじめご了承ください

総合プロデューサー: 中村雅之

アシスタントプロデューサー: 榎本かおり (BOX4628)

／アドバイザー: 宮本芳彦 (宮本卯之助商店) / グラフィックデザイン: みやはらたかお
舞台監督: 山添寿人 / 舞台機構・大道具: 関西舞台 / 音響・照明: ピーエーシーウエスト
／運営ディレクター: 原昇 / 運営: ミューズメントワークス
建築設計・監理: 田野倉建築事務所 / 構造設計・監理: 福山弘構造デザイン
／組立施工: 菜の実建築工房 / 幔幕製作・施工: 宮本卯之助商店



演目解説

「日高川入相花王 渡し場の段」

能を源流として、歌舞伎でも様々な形で作品化されている「道成寺物」の一つ。宝暦9年(1759)、大坂・竹本座の初演。広く知られている安珍清姫伝説に皇位継承争いを加え、他の「道成寺物」とは一味違うスケールの大きい物語に仕立てている。全五段だが、現在演じられているのは四段目の前半「真那古庄司館の段」と後半「渡し場の段」のみ。特に「渡し場の段」のみを演じる場合が多い。

桜木親王は、皇位継承争いから山伏・安珍に身をやつし都から逃れる。途中、一夜の宿を借りた紀州・真那古庄司の一人娘・清姫は、かつて都で見初めた桜木親王に恋心を燃やす。しかし桜木親王には、恋仲のおだ巻姫がいた。庄司の館で落ち合った二人は、道成寺へと向かう。それを知った清姫は、嫉妬に狂い後を追う。

〈今回上演される「渡し場の段」は、この後から始まる〉

清姫が、道成寺を目前とした日高川の岸まで来ると、追って来るのを予測していた桜木親王に言い含められていた渡し守が乗せるのを拒む。嫉妬の塊となった清姫は、日高川に飛び込み、蛇に姿を変え激流を渡り切ったところで終わる。清姫の娘の首は、蛇に変身すると、一瞬にして「ガブ」と呼ばれる恐ろしい形相となる。

「小鍛冶」

能「小鍛冶」を基として作られた「景事物」。「景事物」とは、文楽で音楽性豊かな舞踊の要素が強い小品の事。

ある日、帝は不思議な夢を見る。その夢に従い、三条小鍛冶宗近に対し、御剣を打つよう勅命が下る。宗近には腕の良い相鉈がないが、勅命なので受けない訳にはいかない。必死の思いで稲荷明神へ祈りを捧げていると、老翁が現れる。翁の言う通りに刀を打つ壇を整え待っていると、稲荷明神が狐の姿で現れる。狐は宗近の相鉈を勧め、見事な剣が打ち上がる。

会場アクセス: JR山の手線「原宿」駅、東京メトロ千代田線・副都心線「明治神宮前(原宿)」駅



～1970 年大阪万博 50 周年記念～
にっぽん文楽 in 万博記念公園

※新型コロナウイルス感染症予防のため、公演中止

1970年大阪万博50周年記念

太陽の塔の前で「ピクニック文楽」

地元・大阪で有終の美

「大阪のタカラ」に止まらない「日本のタカラ」である文楽の宣伝隊として、ドーンと1億円以上を掛けて作られた豪華な組立て式の檜舞台を持って全国各地を回って来た「にっぽん文楽」は、当初の予定通り今年で最後の公演を迎える。有終の美を飾るのは、大阪府吹田市にある万博記念公園内、太陽の広場。「1970年大阪万博50周年記念」として、3月21日から24日まで「ピクニック文楽」と銘打ち開催する。

世界最高峰とされるドイツのベルリンフィルは、毎年 初夏の1日、ベルリン郊外の「ヴァルトビューネ（森の劇場）」という森の中にある劇場で、野外コンサートを開く。ビールを飲みながら、開放的な雰囲気の中で最高の音楽を楽しむことから「ピクニックコンサート」とも呼ばれている。この「ピクニックコンサート」に倣い、最後の「にっぽん文楽」は、前代未聞・空前絶後の「ピクニック文楽」とした。

広い芝生の上にレジャーシートを広げて、太陽の塔（岡本太郎作）をバックに建つ舞台で繰り広げられる文楽を、ピクニック気分で気楽に観てもらおう、というもの。その「ピクニックエリア」は、入場無料(※)という太っ腹。かぶりつきで観たいという人のために、縁台に座って しっかり観ることができる「有料エリア」もある。好みによって選べる趣向だ。どちらのエリアも、お酒やおつまみ、お菓子等の持ち込みは自由だ。

演目は、「義経千本桜 道行初音旅」と「増補大江山 戻り橋の段」。「義経千本桜 道行初音旅」は、桜の名所・吉野山を舞台とした華やかな名作。狐を遣わせたら他に敵う者がいない勘十郎の至芸に注目頂きたい。「増補大江山 戻り橋の段」は、豪傑な武士の渡辺綱が髭切丸の太刀で鬼女と戦う、激しい立ち回りが見どころ。いずれも、初めて文楽を見る人でも楽しめる演目だ。

(※) 別途、当日自然文化園入園料(高校生以上：260円、小中学生：80円)が必要

公 演 概 要

○公演タイトル

～1970年大阪万博50周年記念～
にっぽん文楽 in 万博記念公園

○公演期間

2020年3月21日（土）～24日（火）

[1回目(21日・22日)]開場 10:00 開演 11:00

[2回目(21日・22日)]開場 13:00 開演 14:00

[3回目(21日・22日)]開場 16:00 開演 17:00

[1回目(23・24日)] 開場 12:00 開演 13:00

[2回目(23・24日)] 開場 15:00 開演 16:00

○会場

万博記念公園 太陽の広場（太陽の塔前）

アクセス：大阪モノレール「万博記念公園駅」すぐ

○演目・出演

Aプログラム「^{よしつねせんぼんざくら}義経千本桜 ^{みちゆきはつねのたび}道行初音旅」

太 夫／静御前：豊竹呂太夫、狐忠信：豊竹希太夫、ツレ：豊竹亘太夫

三味線／鶴澤清介、鶴澤清丈、鶴澤清公、鶴澤清允

人 形／静御前：吉田勘彌、狐忠信：桐竹勘十郎

Bプログラム「^{ぞうほおおえやま}増補大江山 ^{もどりばしのだん}戻り橋の段」

太 夫／若菜：豊竹芳穂太夫、渡辺綱：竹本小住太夫

三味線／鶴澤藤蔵、鶴澤清尙、八雲：鶴澤友之助、鶴澤清公

人 形／渡辺綱：吉田文司、若菜：豊松清十郎

「解説」

太 夫：竹本小住太夫／三味線：鶴澤友之助／人 形：吉田簗紫郎

人形部：吉田勘市、吉田文哉、吉田簗太郎、桐竹勘次郎、桐竹勘介、

吉田簗之、桐竹勘昇、豊松清之助

囃 子：望月太明蔵社中

※内容・出演者に変更のある場合があります。あらかじめご了承ください

○演目スケジュール

	1回目	2回目	3回目
21日(土)	A)道行	B)戻り橋	A)道行
22日(日)	B)戻り橋	A)道行	B)戻り橋
23日(月)	A)道行	B)戻り橋	
24日(火)	A)道行	B)戻り橋	

○チケット

- ・全席自由：500円(※) チケット発売中
チケット取扱：チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード：499075)
- ・ピクニックエリア：無料(※)

※別途、当日自然文化園入園料(高校生以上：260円、小中学生：80円)が必要

○お問合せ

につぼん文楽プロジェクト (TEL 03-6233-8948、平日 10:00～17:00)
につぼん文楽ホームページ (<http://www.nipponbunraku.com/>)

- ※小雨決行、荒天時は中止
- ※会場内での飲食および持ち込み自由(会場で日本酒を販売)
- ※ピクニックエリアは芝生のためレジャーシートをお持ちください

総合プロデューサー：中村雅之

アシスタントプロデューサー：榎本かおり (BOX4628) / アドバイザー：宮本芳彦 (宮本卯之助商店)
/ グラフィックデザイン：みやはらたかお

舞台監督：山添寿人 / 舞台機構・大道具：関西舞台 / 音響・照明：ピーエーシーウエスト / 運営ディレクター：原昇 / 運営：ミューズメントワークス

建築設計・監理：田野倉建築事務所 / 構造設計・監理：福山弘構造デザイン

組立施工：菜の実建築工房 / 幔幕製作・施工：宮本卯之助商店

主催：日本財団、一般財団法人 につぼん文楽プロジェクト

制作：一般財団法人 につぼん文楽プロジェクト 制作協力：公益財団法人 文楽協会

協力：独立行政法人 日本芸術文化振興会、大阪府、

万博記念公園マネジメント・パートナーズ、北西酒造

1970年大阪万博50周年記念・応援プログラム

○演目解説

「義経千本桜 道行初音旅」

平家との戦いで大きな功績があったにも関わらず、兄・頼朝に疎まれてしまった源義経が都落ちして行く物語を大きな柱とし、それぞれの段は義経の周辺にいる人々を中心に展開して行く。「道行初音旅」は、桜満開の吉野山を背景に、義経の忠臣・佐藤忠信に化けた源九郎狐と、義経の愛妾・静御前が織りなす華やかな演目だ。

義経が吉野山に隠れていると聞いた静御前は、佐藤忠信（実は源九郎狐）を伴い初春の山道を急ぐ。途中、忠信を見失った静が、義経のことを思いながら鼓を打つと、どこからともなく佐藤忠信が現れる。忠信は、義経から賜った鎧を恭しく取り出し、この鎧を賜ったのも、兄・継信が屋島の戦いで討ち死にしたからこそ、と語り涙する。再び二人は、峠を越え吉野山に向かって行く。

「増補大江山 戻り橋の段」

大江山の鬼退治で有名な源頼光の家来の一人、渡辺綱が、鬼女の片腕を切り落とした、という伝説を基にした作品。

ある日の夜、綱が京・一条の戻り橋に差し掛かると、美しい女が佇んでいた。行き先を尋ねると五条まで行くと言うので、送ろうと一緒に歩き始める。フッと川面を見ると、そこには美女ではなく、恐ろしい鬼の姿が映っていた。綱は「本性を現せ」と詰め寄り戦いが始まる。この激しい立ち回りが見どころ。一瞬にして、美女が鬼女に、また美女に戻る。この特殊な首は「ガブ」と呼ばれる。

※新型コロナウイルス感染症予防のため、公演中止を決定

～ 1970年大阪万博50周年記念～

にっぽん文楽

Nippon Bunraku
in 万博記念公園

太陽の塔の前で「ピクニック文楽」



Aプログラム 「義経千本桜」 道行初音旅

豊竹呂太夫、鶴澤清介、桐竹勘十郎 ほか

Bプログラム 「増補大江山」 戻り橋の段

豊竹芳穂太夫、鶴澤藤蔵、豊松清十郎 ほか

総合プロデューサー…中村雅之

2020年3月21日(土)～24日(火)

会場:万博記念公園 太陽の広場(太陽の塔前)

チケット料金(※):500円(全席自由) チケット発売:1月7日より

ピクニックエリア(※):無料

チケット取扱い: **チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード:499075)**

※別途、当日自然文化園入園料(高校生以上:260円、小中学生:80円)が必要

※後方の芝生ピクニックエリアは、自然文化園入園料のみでお入り頂けます。レジャーシートをお持ちの上ご来場ください。

※荒天時は中止となります。中止のご案内は、にっぽん文楽ホームページ(<http://www.nipponbunraku.com>)でお知らせします。

※会場は屋外のため、寒暖対策には十分ご注意ください。※会場内での飲食および持ち込みは自由です

お問合せ:にっぽん文楽プロジェクト (TEL03-6233-8948、平日10:00～17:00)

写真:キッチンミノル



主催:日本財団、一般財団法人 にっぽん文楽プロジェクト

1970年大阪万博50周年記念・応援プログラム

制作:一般財団法人 にっぽん文楽プロジェクト 制作協力:公益財団法人 文楽協会

協力:独立行政法人 日本芸術文化振興会、大阪府、万博記念公園マネジメント・パートナーズ、北西酒造

77/102

日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION
For Social Innovation

前代未聞・空前絶後の「ピクニック文楽」

総合プロデューサー 中村雅之 (横浜能楽堂芸術監督 / 明治大学大学院兼任講師)

「大阪のタカラ」に止まらない「日本のタカラ」である文楽の宣伝隊として、ドーンと1億円以上を掛けて作られた豪華な組立て式の檜舞台を持って全国各地を回って来た「にっぽん文楽」。最後の公演になる8回目の今回は、地元・大阪に戻って来ました。有終の美を飾る地に残ったのは、万博記念公園。今年は、1970年の大阪万博が開催されてから、ちょうど50周年の節目の年。これを記念して、大阪のシンボルでもある「太陽の塔」(岡本太郎作)の前で開催します。

世界最高峰とされるドイツのベルリンフィルは、毎年、初夏の1日、ベルリン郊外の「ヴァルトビューネ」という森の中にある劇場で、野外コンサートを開きます。ビールを飲みながら開放的な雰囲気の中で、最高の音楽を楽しめることから「ピクニックコンサート」とも呼ばれています。この「ピクニックコンサート」に倣い、最後の「にっぽん文楽」は、大胆にも「ピクニック文楽」と銘打つことにしました。

普段は立ち入り禁止の「太陽の広場」。かぶり付きでしっかりと見たい方はチケットを買って前方の縁台席で、ゆったりと見たい方は、無料の後方エリアで芝生の上にレジャーシートを敷いてお楽しみください。もちろん、お酒やおつまみ、お菓子等の持ち込みは自由です。芝生の周りからは、気軽に立ち見も出来ます。

出演者も、「太夫」豊竹呂太夫、「三味線」鶴澤清介、「人形」桐竹勘十郎ら豪華な顔ぶれが揃い、最後を締めます。演目は、「義経千本桜 道行初音旅」と「増補大江山 戻り橋の段」。「義経千本桜 道行初音旅」は、桜の名所・吉野山を舞台とした華やかな名作。狐を遣わせたら他に敵う者がいない勘十郎の至芸にご注目ください。「増補大江山 戻り橋の段」は、豪傑な武士の渡辺綱が髭切丸の太刀で鬼女と戦う、激しい立ち回りが見どころ。いずれも、初めて文楽を見る人でも楽しめる演目です。

前代未聞・空前絶後の「ピクニック文楽」をお見逃しなく。

公演スケジュール / 2020年3月21日(土)～24日(火)

[1回目(21・22日)]	開場10:00	開演11:00
[2回目(21・22日)]	開場13:00	開演14:00
[3回目(21・22日)]	開場16:00	開演17:00
[1回目(23・24日)]	開場12:00	開演13:00
[2回目(23・24日)]	開場15:00	開演16:00

演目スケジュール

	1回目	2回目	3回目
21日(土)	A)道行	B)戻り橋	A)道行
22日(日)	B)戻り橋	A)道行	B)戻り橋
23日(月)	A)道行	B)戻り橋	
24日(火)	A)道行	B)戻り橋	

演目・出演

Aプログラム

よしつね せんぼんざくら
「義経千本桜」
みちゆきはつねのたび
道行初音旅

太 夫 / 静御前: 豊竹呂太夫、狐忠信: 豊竹希太夫、ツレ: 豊竹巨太夫
三味線 / 鶴澤清介、鶴澤清丈、鶴澤清公、鶴澤清允
人 形 / 静御前: 吉田勘彌、狐忠信: 桐竹勘十郎

Bプログラム

ぞうぼ おおえやま
「増補大江山」
もどりばしの だん
戻り橋の段

太 夫 / 若菜: 豊竹芳穂太夫、渡辺綱: 竹本小住太夫
三味線 / 鶴澤藤蔵、鶴澤清旭、八雲: 鶴澤友之助、鶴澤清公
人 形 / 渡辺綱: 吉田文司、若菜: 豊松清十郎

「解説」

太 夫: 竹本小住太夫 / 三味線: 鶴澤友之助 / 人 形: 吉田襄紫郎

人形部: 吉田勘市、吉田文哉、吉田襄太郎、桐竹勘次郎、桐竹勘介
吉田襄之、桐竹勘昇、豊松清之助

囃 子: 望月大明蔵社中

演目解説

「義経千本桜 道行初音旅」

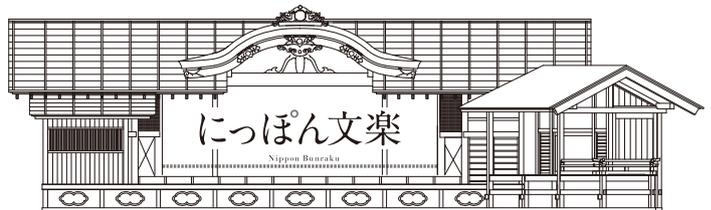
平家との戦いで大きな功績があったにも関わらず、兄・頼朝に疎まれてしまった源義経が都落ちして行く物語を大きな柱とし、それぞれの段は義経の周辺にいる人々を中心に展開して行く。「道行初音旅」は、桜満開の吉野山を背景に、義経の忠臣・佐藤忠信に化けた源九郎狐と、義経の愛妾・静御前が織りなす華やかな演目だ。

義経が吉野山に隠れていると聞いた静御前は、佐藤忠信(実は源九郎狐)を伴い初春の山道を急ぐ。途中、忠信を見失った静が、義経のことを思いながら鼓を打つと、どこからともなく佐藤忠信が現れる。忠信は、義経から賜った鎧を恭しく取り出し、この鎧を賜ったのも、兄・継信が屋島の戦いで討ち死にしたからこそ、と語り涙する。再び二人は、峠を越え吉野山にたどり着く。

「増補大江山 戻り橋の段」

大江山の鬼退治で有名な源頼光の家来の一人、渡辺綱が、鬼女の片腕を切り落とした、という伝説を基にした作品。

ある日の夜、綱が京・一条の戻り橋に差し掛かると、美しい女が佇んでいた。行き先を尋ねると五条まで行くと言うので、送ろうと一緒に歩き始める。フツと川面を見ると、そこには美女ではなく、恐ろしい鬼の姿が映っていた。綱は「本性を現せ」と詰め寄り戦いが始まる。この激しい立ち回りが見どころ。一瞬にして、美女が鬼女に、また美女に戻る。この特殊な首は「ガブ」と呼ばれる。



総合プロデューサー: 中村雅之

アシスタントプロデューサー: 榎本かおり (BOX4628) / アドバイザー: 宮本彦彦 (宮本卯之助商店) / グラフィックデザイン: みやはらたかお

舞台監督: 山添寿人 / 舞台機構・大道具: 関西舞台 / 音響・照明: ビーエーシーウエスト

運営ディレクター: 原昇 / 運営: ミューズメントワークス

建築設計・監理: 田野倉建築事務所 / 構造設計・監理: 福山弘構造デザイン

組立施工: 菜の実建築工房 / 饅幕製作・施工: 宮本卯之助商店

にっぽん文楽公演毎入場者数一覧

※無料公演

	六本木 ヒルズ	難波宮	浅草観音	伊勢神宮	上野の杜	熊本城	明治神宮	万博記念 公園
チケット単価 (円)	2,000	2,000	2,000	0	2,000	2,000	1000	公演 中止
実施回数	8/9	8/8	6/8	7/8	3/8	5/8	12/12	
席数	300	400	350	350	350	350	120	
総入場者数	1915	2802	2001	1972	1056	1001	1267	
内・招待者	300	90	220	*	130	525	161	
立見エリア							2335	